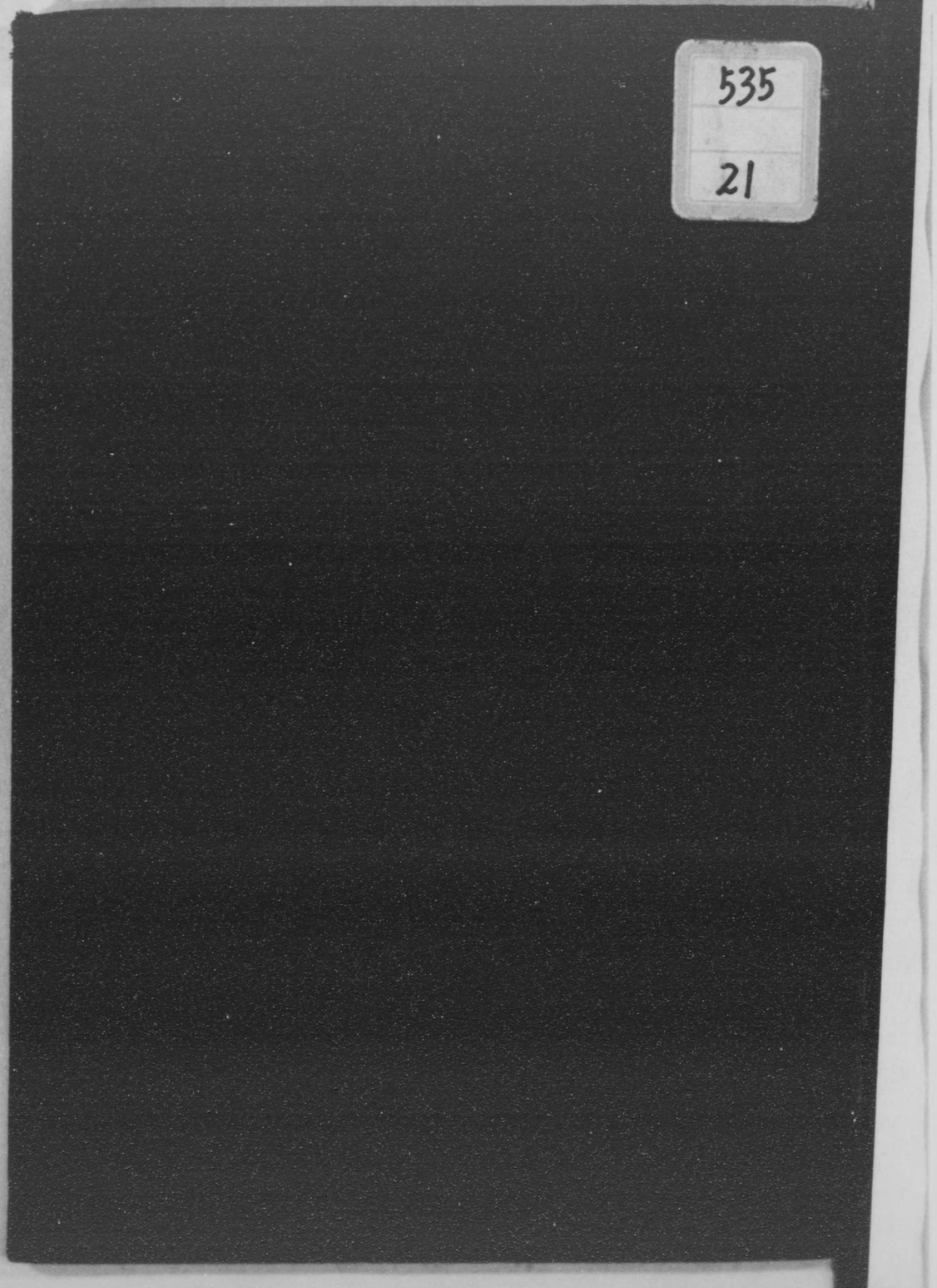


535
21

0039831001

0039831-001

５３５－２１

三重県社会事業概要

三重県社会課・編

三重県

昭和２－４

AGI

納本

昭和二年四月

三重縣社會事業概要

三重縣學務部社會課

535-21

序言

本編ハ三重縣内ニ於ケル社會的施設ノ概要ヲ簡單ニ摘録セルモノナリ

本編ノ摘録ニ漏レタルモノハ後日ヲ俟チテ補フ所アルヘシ

昭和二年五月

三重縣學務部社會課

三重縣社會事業概要

目次

第一、三重縣社會課及關係規程
(イ) 社會課員……一
(ロ) 社會課分掌事務……二
(ハ) 社會事業補助規程……三
(ニ) 社會事業施設規程……四
(ホ) 公益法人取締規程……九
(附) 社會事業ニ關スル公益法人……一一
第二、救濟基金及經費
(イ) 慈惠救濟基金……一四
(ロ) 罹災救助基金……一五
(ハ) 大禮記念恩賜賑恤金……一五
(ニ) 軍人援護資金……一五
(ホ) 社會事業費……一六
第三、調査研究並聯絡統一機關

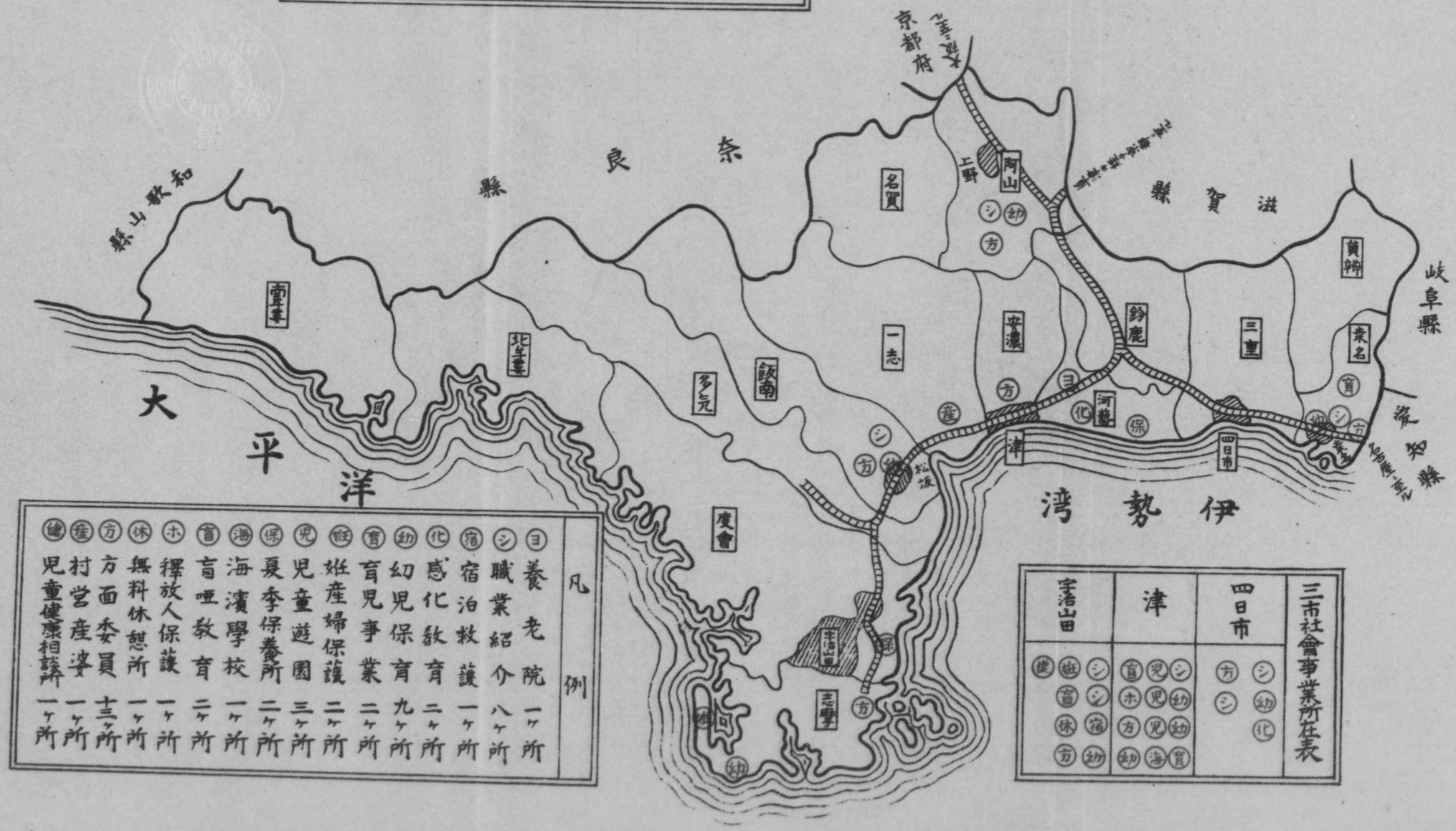
(イ) 社會事業調査會……一六
(ロ) 方面委員……一七
(ハ) 三重縣社會事業協會……三六
(ニ) 三重縣佛教會……四三
第四、救貧、防貧事業
一、窮民救助……四七
二、行旅病人及行旅死亡人並精神病者取扱……四九
三、罹災救助……五四
1 罹災救助ニ關スル規程……五四
2 罹救災助ニ關スル內規……六八
3 三重縣罹災救助基金管理及支出ニ關スル規程……六九
4 市町村罹災救助資金補助方法……七〇
5 市町村罹災救助資金補助請求手續……七一
6 市町村罹災救助資金監督規程……七二
四、施藥救療……七五
(イ) 恩賜財團濟生會……七五
(ロ) 村醫師……八〇
(ハ) 無料巡回診療班……八二
(ニ) 結核早期診斷……八三
五、養老……八五
(イ) 三重養老院……八五
六、軍事救護……八七
七、人事相談……九〇
八、職業紹介……九二
(イ) 桑名町職業紹介所……九二
(ロ) 四日市市職業紹介所……九三
(ハ) 津市職業紹介所……九四
(ニ) 宇治山田市職業紹介所……九五
(ホ) 松阪町職業紹介所……九六
(ヘ) 上野町職業紹介所……九七
(ト) 明照淨濟會職業紹介所……九八
(チ) 四日市船員職業紹介所……九九
九、宿泊救護……一〇〇
(イ) 明照淨濟會……一〇〇
十、住宅供給……一〇三
(イ) 住宅組合ニ關スル事項……一〇三

(ロ) 公營住宅……一三八
1 宇治山田市市營住宅……一三八
2 四日市市營住宅……一四〇
3 富田町營住宅……一四一
4 白子町營住宅……一四一
5 松江村營住宅……一四二
十一、公設市場並公設浴場……一四三
第五、兒童保護事業
一、感化教育……一四五
(イ) 三重縣立國兒學園……一四五
(ロ) 財團法人三重感化院……一五〇
二、保育並育兒……一五二
(イ) 津市保育園……一五二
(ロ) 財團法人三重保育院……一五四
(ハ) 津愛兒園……一五六
(ニ) 四日市佛教保育院……一五八
(ホ) 白鳥愛兒園……一六〇

(ヘ) 宇治山田市佛教團保育園……一六一
(ト) 松阪愛護園……一六三
(チ) 桑名愛兒園……一六五
(リ) 財團法人三重濟美學院……一六七
(ヌ) 財團法人九華育兒院……一六九
(ル) 渡切村立保育場……一七二
(ヲ) 東洋紡績株式會社富田工場託兒所……一七三
三、農繁託兒……一七三
四、妊產婦保護……一七六
(イ) 宇治山田市妊產婦保護……一七六
(ロ) 鵜鳥村產婦保養所……一七八
五、幼兒保護……一七九
(イ) 津市兒童遊園……一八〇
六、病兒及虛弱兒保護……一八一
(イ) 宇治山田市臨時乳兒健康相談所……一八一
(ロ) 日本赤十字社三重支部夏期兒童保養所……一八二
(ハ) 津市教育會夏季海濱學校……一八四

七、盲聾啞兒教育……一八六
(イ)縣立三重盲啞學校……一八六
(ロ)神都訓盲院……一九〇
第六、敎化事業
一、矯風並生活改善……一九二
二、勤儉奬勵(民力涵養、消費節約、國民精神作興)……一九三
(イ)三重縣斯民會……二〇七
三、地方改善事業……二一一
四、釋放人保護……二一二
(イ)財團法人三重縣保護會……二一〇
五、雜……二一二
(イ)如雪園……二一三
目次終

社會事業分布圖 昭和二年四月



凡例	
㋙	養老院 一ヶ所
㋛	職業紹介 八ヶ所
宿	宿泊救護 一ヶ所
化	感化教育 二ヶ所
幼	幼児保育 九ヶ所
育	育児事業 二ヶ所
姙	姙産婦保護 二ヶ所
児	児童遊園 三ヶ所
保	夏季保養所 二ヶ所
海	海濱學校 一ヶ所
盲	盲唖教育 二ヶ所
ホ	釋放人保護 一ヶ所
休	無料休憩所 一ヶ所
方	方面委員 十三ヶ所
産	村営産婆 一ヶ所
健	児童健康相談所 一ヶ所

三市社會事業所在表

四日市	津	宇治山田
㋛ 幼 化 方 ㋛	㋛ 児 幼 幼 育 海	㋛ 姙 盲 休 方 ㋛ 宿 幼 健

三重縣社會事業概要

第一　三重縣社會課及關係規程

本縣ニテハ從來地方課ニ於テ慈善救濟ニ關スル事務ヲ取扱ヒ來リシカ時勢ノ推移ト民衆ノ自覺トハ一層社會的施設事業ノ發達ヲ促シ殊ニ戰後ニ於ケル社會ノ趨勢ハ別ニ一課ヲ設ケテ各種社會事業ノ進捗ヲ圖リ聯絡統一ヲ期スルノ必要ヲ認メタルヲ以テ大正九年六月新ニ社會課ヲ設置シ爾來斯業ノ發達奬勵ニ努メ今日ニ及ヘリ課員ノ數並其ノ分掌事務左ノ如シ

（イ）課　員　（昭和二年三月末）

課長（兼任）地方事務官	一
屬	六
社會事業主事補	二
縣書記	一
囑託	二
雇	二
團體事務員	二

●(ロ) 社會課分掌事務

一、賑恤救ニ關スル事項
二、軍事救護ニ關スル事項
三、罹災救助ニ關スル事項
四、行旅病死亡人及精神病者ノ監護費ニ關スル事項
五、感化敎育ニ關スル事項
六、職業紹介ニ關スル事項
七、住宅改良及住宅組合ニ關スル事項
八、社會事業ニ關スル公益法人ノ指導監督ニ關スル事項
九、公私設社會事業ノ補助奬勵並指導監督ニ關スル事項
十、社會事業ニ關スル低利資金及罹災救助資金運用ニ關スル事項
十一、勤儉奬勵ニ關スル事項
十二、矯風事業ニ關スル事項
十三、釋放人保護ニ關スル事項
十四、地方改善ニ關スル事項
十五、生活改善ニ關スル事項
十六、方面委員ニ關スル事項
十七、社會敎化及宣傳ニ關スル事項
十八、其ノ他社會事業ニ關スル施設ニシテ他課ノ主掌ニ屬セサル事項

而シテ本縣ニ於テハ今後必要ナル未設社會的施設ノ設置奬勵ニ努ムルト共ニ既設事業ノ指導發展ニ努メ左記ノ補助規程ヲ設ケテ毎年約貳萬五千圓內外ノ補助金ヲ交付シツヽアリ又曩ニ左記社會事業施設規程並公益法人取締規程ヲ設ケテ之ヲ取締リ各種ノ事業遂年發達ノ道程ニ在リ

●(ハ) 社會事業補助規程 (大正九年十二月縣令第七十號 大正十五年七月縣令第百二十四號改正)

第一條 社會事業ノ改善ニ資スルノ目的ヲ以テ施行スル事業ニ對シ縣ハ每年度豫算ノ範圍ニ於テ補助金ヲ交付ス

第二條 補助ヲ受ケムトスルモノハ施設ヲ要スル事由ヲ詳記シタル願書ニ左ノ書類ヲ添付シ每年二月末日迄ニ知事ニ差出シ豫メ補助ノ承認ヲ受クヘシ

一、事業經營ノ狀況又ハ事業計劃
二、施設ノ事業カ工事ノ施行ニ屬スルモノナルトキハ設計又ハ仕樣書圖面及工事ノ着手並其ノ竣工豫定期限
三、收支豫算書及前年度決算書但シ豫算ノ設ケナキモノハ收支見積計算書

第三條 補助ヲ受ケタル事業ハ其ノ施設ヲ變更シ又ハ之ヲ讓渡シ若ハ債務ノ擔保ニ供スル

コトヲ得ス但シ豫メ知事ノ認可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四條　知事ハ隨時吏員ヲシテ補助ノ認可ヲ爲シタルモノニ就キ實地調査ヲ爲サシメ其ノ他必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノニ對シテハ其ノ既ニ受ケタル補助金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

一、詐欺ノ行爲ヲ以テ補助金ヲ受ケタルモノ

二、第三條ノ規定ニ違反シタルモノ

三、第四條ノ臨檢ヲ拒ミ又ハ同條ニ依リ發シタル命令ニ從ハサルモノ

第六條　補助金ヲ受ケル事業ノ工事ニ着手シタルトキ及其ノ工事竣成シタルトキハ直ニ其旨知事ニ屆出ツヘシ

第七條　本規程ニ依リ知事ニ差出ス願書又ハ屆書ハ所轄市役所又ハ町村役場ヲ經由スヘシ市町村長ハ前項ニヨリ補助願書ヲ受理シタルトキハ事業ノ適否及效果ヲ調査シ意見ヲ附シテ之ヲ進達スヘシ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●(ニ)社會事業施設規程（大正十五年七月縣令第百三十七號）

第一條　本令ニ於テ社會事業ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス私人ニ於テ孤子、棄兒、幼兒其ノ他ノ兒童保護、防貧、救貧施設、社會敎化及勞働者ノ福祉增進其ノ他各種救濟事業及之等ノ諸調査研究若ハ聯絡統一ヲ圖ルヲ以テ目的トスルモノヲ謂フ

第二條　社會事業ヲ經營セムトスルモノハ法令ニ規定アルモノヲ除ク外左ノ事項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クシ

一、目　的
二、名　稱
三、主タル事務所及事業施行ノ場所
四、規約、定款、其ノ他ノ諸規則
五、事業計畫竝經營方法
六、管理及維持ノ方法
七、開始豫定ノ年月日
八、建築其ノ他ノ工事ニ要スルモノニ在リテハ用地及建物ノ圖面竝其ノ着手及竣工豫定期日
九、存立期間又ハ閉鎖ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ期間又ハ事由
一〇、數人共同シテ經營スルモノニ在リテハ代表者ノ氏名及其ノ共同員ノ資格ノ得喪ニ關スル事項

一一、經營者ノ履歷
一二、被救濟者ニ付定員ノ定メアルトキハ其ノ定員

第三條　前條第二號、第六號、第七號、第八號及第十二號ノ事項ヲ變更シ又ハ事業ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ都度知事ニ屆出ツヘシ

第四條　第二條第一號、第三號乃至第五號、第九號及第十號ノ事項若ハ經營者ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事項及理由ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　保姆、教師、事務員及之ニ準スヘキ者ヲ任用シタルトキハ經營者ヨリ履歷ノ概要ヲ具シ其ノ都度屆出ツヘシ

前項ノ職員辭職シタルトキハ其ノ事由及年月日ヲ報告スヘシ

第六條　死亡其ノ他ノ事由ニ因リ經營者缺ケタル場合ニ於テハ其ノ事故ノ發生後十日以內ニ其ノ相續人ヨリ事業ノ承繼者ヲ定メ其ノ履歷書ヲ添ヘ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　事業經營者ハ左ノ簿冊ヲ備付クヘシ

一、定款又ハ規約及諸規則
一、金錢出納簿
一、財產臺帳
一、備品臺帳及消耗品出納簿
一、團體關係者名簿

一、會議書類及會議錄

第八條　被救濟者アルトキハ其ノ名簿ヲ備ヘテ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一、氏名
二、生年月日
三、男女ノ別
四、本籍地
五、戶主及戶主トノ續柄
六、收容ノ年月日及理由其ノ他本人ノ身上ニ關スル事項
七、未成年者ニ在リテハ教育程度發育狀態及親權者若ハ後見人ニ關スル事項
八、退所、逃亡、死亡等ノ年月日及其ノ事由
九、前各號ノ外必要ト認ムル事項

前項ノ名簿ハ被救濟者一人毎ニ別紙トスヘシ

第九條　被救濟者ヲシテ作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ一人毎ニ勞務ノ種類、勞務時間及收得金ヲ明細ニ登錄スヘシ

第十條　事業費豫算ハ年度開始前之ヲ定メ決定後十日以內ニ決算ハ年度終了後一月以內ニ知事ニ報告スヘシ豫算ヲ追加更正シタルトキ亦同シ

決算ヲ報告スルトキハ併テ左ノ事項ヲ報告スヘシ

一、前年中ノ事業成績
二、前年中ノ處務ノ要件
三、前年度末現在財產目錄
四、名稱ノ如何ニ拘ハラス繼續シテ金員ヲ醵出スル者ノ年度末現在數

第十一條　知事ハ隨時官吏吏員ヲ派遣シテ事業及會計ヲ檢査セシメ其ノ他必要ナル命令ヲ發スルコトアルヘシ

第十二條　事業經營者左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ其ノ事業ノ改善若ハ停止ヲ命シ又ハ認可ヲ取消スコトアルヘシ

一、目的以外ノ行爲其ノ他不適當ナル經營ヲ爲シタルトキ
二、本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ
三、公益其ノ他社會事業ノ發達ヲ阻害スル行爲アリト認メタルトキ

第十三條　本令ニ依リ認可ヲ與ヘタル事業ハ其ノ目的、名稱、位置、經營者其ノ必要ナル事項及前條ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示ス其ノ告示事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

第十四條　農繁期託兒所其ノ他一時的ノ社會事業ヲ經營セムトスルモノハ其ノ都度第二條ノ事項ヲ届出ツヘシ

第十五條　本令ニ依リ提出スル書類ハ所轄市役所又ハ町村役場ヲ經由スヘシ

第十六條　公共團體ニ於テ經營スル社會事業及自己ノ業務ニ從事セシムル者ノ爲ニ經營スル社會事業ニ付テハ本令ノ規定ニ準シ届出ツヘシ

附　則

第十七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條　大正七年九月三重縣令第四十號感化救濟事業取締規程ハ之ヲ廢止ス

第十九條　本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第二條ニ揭ケタル事項ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

本令施行ノ際現ニ社會事業ヲ經營セルモノニシテ第十六條ノ規定ニ該當スルモノハ（大正七年九月縣令第百四十一號、大正十五年七月縣令第百三十六號改正）

●（ホ）

第一條　本規程ニ於テ公益法人取締規程（大正七年九月縣令第百四十一號、大正十五年七月縣令第百三十六號改正）ニ揭ケタル事項ヲ具シ知事ニ届出ツヘシ

第一條　本規程ニ於テ公益法人ト稱スルハ民法第三十四條及民法施行法第十九條ニ依ルモノヲ謂フ

第二條　公益法人ハ其ノ設立登記ヲ了シタル日ヨリ十日以内ニ左ノ事項ヲ當廳ニ届出ツヘシ第二號及第三號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

一、登記ヲ爲シタル日
二、登記ヲ了シタル事項
三、一定ノ場所ニ於テ事業ヲ施行スルモノニ在リテハ其ノ位置
四、設立以前既ニ爲シタル事業アルトキハ其ノ種類及功程
五、財產目錄

六、社團法人ニ在リテハ社員ノ員數
孤兒ハ遺兒其ノ他父又ハ母ニ於テ親權ヲ行ヒ難キ情況ニアル未成年者ヲ敎育スル法人ニシテ前項ノ屆出ヲ爲ス場合ニ於テハ理事ノ履歷書ヲ添付スヘシ新ニ理事ヲ置キ若ハ之ヲ變更シタル場合亦同シ

第三條　本縣外ニ於テ設立ノ許可ヲ受ケタル公益法人ニシテ新ニ本縣內ニ事務所ヲ設置シ若ハ事業ヲ開始シタルモノハ第二條第一項ノ事項ニ併テ定款若ハ寄附行爲及主タル事務所ノ所在地ヲ屆出ツヘシ

第四條　公益法人ハ左ノ事項ヲ其ノ都度當廳ニ屆出ツヘシ
一、定款又ハ寄附行爲以外ノ諸規程ヲ設定シ若ハ變更シタルトキ
二、總會ノ議決事件
三、理事以外ニ役員ヲ設ケタルトキハ其ノ職名及住所氏名並其ノ異動

第五條　一定ノ場所ヲ設ケ老幼疾病者不具癈疾者窮民不良少年若ハ免囚等ヲ救濟スルヲ以テ目的トスル法人ニ就テハ社會事業施設規程第八條及第九條ノ規程ヲ適用ス

第六條　公益法人ハ每事業年度歲入歲出豫算及決算ヲ調製シ豫算ハ決定後十日以內ニ決算ハ年度終了後一月以內ニ當廳ニ屆出ツヘシ但シ豫算ヲ追加更正シタルトキ亦同シ決算ヲ屆出ツルトキハ併テ左ノ事項ヲ屆出ツヘシ

一八、法人ノ目的タル事業ノ狀況
二、每年度末現在ニ於ケル財產目錄
三、前年度中ニ於ケル處務ノ要件
四、社團法人ニ在リテハ年度末現在社員ノ員數

第七條　本令ニ依ル屆出事項中他ノ法令又ハ指令ニ依リ別ニ主務官廳ノ許可ヲ受クヘキモノ及報告スヘキ事項ハ更ニ屆出ツルヲ要セス

第八條　公益法人ノ設立其ノ他ニ關シ主務大臣又ハ當廳ニ提出スヘキ書類ハ總テ其ノ主タル事務所所在地ノ市役所又ハ町村役場ヲ經由スヘシ但シ主務大臣ノ許可ヲ申請スル場合ハ總テ申請書三通ヲ提出スルコトヲ要ス

附　則

第九條　本令ハ大正七年九月十日ヨリ之ヲ施行ス

第十條　本令施行ノ際現ニ存スル公益法人ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ第二條第十一項第四條第一號及第四號ノ事項ヲ當廳ニ屆出ツヘシ

社會事業ニ關スル公益法人

法人名稱	主ナル事務所ノ所在地	設立許可年月日	目的ノ大要
丹生川報德社	員辨郡丹生川村	明治三十五年六月二十八日	二宮尊德ノ遺敎ヲ遵奉シ勤儉推讓ノ德義ヲ奬勵シ報德ノ事業ヲ樹ツ

報德共同	村	一志郡豐田	同四十四年五月二十日	勤儉推讓ノ德義ヲ奬勵ス
報德積善	社	阿山郡島ヶ原村	大正十年九月十六日	(敎育勅語ノ御趣旨ヲ遵奉シ民力涵養(ト民風ノ改善ニ努メ併セテ家道振興(ヲ圖ル
豐田報德	社	一志郡豐田村	明治三十三年六月一日	勤儉推讓ノ德義ヲ奬勵ス
手司久連報德	社員	辨郡十社村	同三十五年七月十一日	(二宮尊德ノ遺敎ヲ遵奉シ勤儉推讓ノ(德義ヲ奬勵シ報德事業ヲ樹ツ
大泉報德	社	同郡大泉村	同三十六年十月九日	(二宮尊德ノ遺敎ヲ遵奉シ推讓ノ德義(ヲ奬勵ス
神津佐報德	社	度會郡神原村	同四十三年一月二十五日	(二宮尊德ノ遺敎ヲ遵奉シ報德ノ美風(ヲ養フ
田中公益財團		阿山郡上野町	大正九年二月十日	公益事業ヲ爲ス
夏艸報德	社	度會郡神原村	明治四十三年一月二十六日	(二宮尊德ノ遺敎ヲ遵奉シ報德ノ美風(ヲ實踐ス

九華育兒院		桑名郡桑名町	大正元年十月十六日	(貧困無告ノ兒童ヲ敎育シ獨立自活ノ途ヲ得セシム
栗木廣報德社		度會郡神原村	明治四十三年六月八日	(二宮尊德ノ遺敎ヲ遵奉シ報德ノ美風(ヲ養フ
山原報德社		同郡同村	同年二月五日	(二宮尊德ノ遺敎ヲ遵奉シ報德ノ美風(ヲ實踐ス
松阪德義	社	飯南郡松阪町	同三十三年六月十三日	學術慈善事業
深井澤報德社		鈴鹿郡深井澤村	同四十二年二月二十六日	(遠江國報德社ノ師傳ニ依リ勤儉推讓(ノ德義ヲ奬勵シ報德ノ事業ヲ樹ツ
三重濟美學院		津市丸之內殿町	大正六年二月二十二日	(佛敎ニ基キ慈善ヲ主トシテ普ク貧困(ノ兒童ヲ敎育ス
三重保育院		同市津興米之內	同七年三月十三日	(佛敎ニ基キ晝間勞働者ノ幼兒ヲ養育(保護ス
三重縣保護會	同	市上辨財町	同九年五月二十四日	(釋放人及之ニ準スヘキ者ノ保護ヲナ(ス

三重感化院	四日市々濱田同六年五月一日	佛敎ニ基キ慈善ヲ旨トシ普ク貧困無告ノ不良少年ヲ敎育感化シ獨立自活ノ途ヲ得セシメ以テ社會ノ福祉ヲ增進ス
十社報德社	員辨郡十社村明治三十六年十月二日	二宮尊德ノ遺敎ヲ遵奉シ勤儉推讓ノ德義ヲ奬勵シ報德事業ヲ樹ツ
東大淀報德社	度會郡北濱村大正二年一月十日	二宮尊德ノ遺敎ヲ遵奉シ報德ノ美風ヲ養フ
積善報德社	員辨郡丹生川村同年五月二十四日	二宮尊德ノ遺敎ヲ遵奉シ勤儉推讓ノ德義ヲ奬勵シ報德ノ事業ヲ樹ツ

第二　救濟資金及經費

(一)　慈惠救濟基金

●イ

明治三十年一月ノ御大喪ニ際シ地方慈善救濟ノ御思召ヲ以テ金八千參百圓ヲ下賜セラレタルニヨリ之ヲ基金トシ縣ハ同三十九年迄每年金四千圓ヲ支出シテ增殖ヲ圖リ其ノ後大正元年ノ御大喪ニ際シ金一萬五千二百圓昭和元年ノ御大喪ニ際シ更ニ一萬九千七百圓御下賜ノ恩命ニ浴シタルヲ以テ之ヲ基金ニ加ヘ之ニ依リテ生スル利子ノ中金壹萬五千圓內外ヲ一般ノ社會事業補助竝奬勵費ニ支出シツヽアリ昭和二年三月末ノ該基金現在額左ノ如シ

一金五拾壹萬四千拾五圓

(二)　罹災救助基金

●ロ

明治三十二年三月法律第七十七號ヲ以テ罹災救助基金法ノ實施セラルヽニ及ヒ從來ノ備荒儲蓄法ニ依リテ積立テタル儲蓄金ヲ受入レ之ヲ特別會計トナス、而シテ市町村罹災救助資金補助方法ヲ設ケ每年參萬圓ノ範圍ニ於テ蓄積額ト同額ノ補助ヲ與ヘ該基金ノ蓄積ヲ奬勵シツヽアリ（別項罹災救助欄參照）大正十五年十一月末ノ該基金現在額左ノ如シ

一金參百六拾四萬九百〇七圓

(三)　大禮紀念恩賜賑恤金

●ハ

大正四年十一月御卽位大典ニ際シ特ニ賑恤ノ思召ヲ以テ下賜セラレタル金壹萬五千貳百圓ヲ特別會計ニ依リ管理蓄積シ此ノ基金ヨリ生スル利子並前記慈惠救濟基金ヨリ每年受入ルヽ、金額參千圓內外ヲ以テ賑恤ノ資ニ充テ明治七年十二月太政官達恤救規則ニ該當セサル窮民ヲ救助ス（別項窮民救助欄參照）大正十五年十一月末ノ該基金現在額左ノ如シ

一金壹萬參千圓

(四)　軍人援護資金

●ニ

明治三十九年八月本縣ニ配付セラレタル帝國軍人援護會殘餘金四萬參千圓ヲ特別會計トシ該基金ヨリ生スル利子ノ內一ヶ年約參千圓ヲ愛國婦人會三重支部ニ交付シ大正六年十月公布ノ軍事救護法ニ該當セサルモノ若ハ同法ニ依救護ヲ受ルモ尙生計ヲ支持シ能サルモノヽ救護ヲ同會ニ委託ス（別項軍事救護欄別表參照）大正十五年十一月末該資金現在額左ノ如シ

一金八萬六千六百四拾六圓

●(ホ)社會事業費

明治三十二年三月法律第九十三號行旅病人及行旅死亡人取扱法同三十三年三月法律第三十八號精神病者監護法公布以來一般會計ニ依リ毎年豫算ヲ定メ取扱ヲ（別項行旅病死亡人取扱及精神病者監護法參照）而シテ昭和二年度該豫算額左ノ如シ

一金壹千五百〇六圓

第三　調査研究並聯絡統一機關

●(イ)社會事業調査會

大正九年六月社會課設置ト共ニ社會事業ノ調査審議機關トシテ社會事業調査會ヲ設ケ各種社會事業ノ聯絡ヲ圖リ兼テ斯業ニ關スル調査研究ヲ爲シツヽアリ規程左ノ如シ

（大正九年六月縣告示第二百三十九號）

社會事業調査會規程

第一條　社會事業調査會ハ知事ノ監督ニ屬シ社會事業ニ關スル事項ヲ調査審議ス

第二條　調査會ハ會長一名副會長一名及委員若干名ヲ以テ之ヲ組織ス

第三條　會長ハ內務部長副會長ハ警察部長委員ハ知事官房主事內務部各課長及警察部各課長ヲ以テ之ニ充ツ

前項ノ外知事ハ必要ニ依リ官吏々員及學識經驗アル者ノ中ヨリ委員ヲ命シ又ハ囑託ス

第四條　會長ハ會務ヲ總理シ會長事故アルトキハ副會長之ヲ代理ス

第五條　調査會ニ幹事ヲ置キ委員ノ中ヨリ知事之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第六條　調査會ニ書記ヲ置キ官吏々員ノ中ヨリ知事之ヲ命ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

第七條　調査會ハ每月二回之ヲ開ク但シ必要ニ依リ臨時開會スルコトアルヘシ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ施行ス

●(ロ)方面委員

縣下ノ市街地及之カ接續地ニハ相當多數ノ細民住居スルヲ以テ方面委員制度ヲ布キ之カ調査並救濟ヲ爲サムトシ大正十二年六月方面委員設置規程ヲ發布シ爾來順次左記方面ニ八十八名ノ委員ヲ囑託セリ而シテ大正十五年七月委員設置規程ヲ改正ス越エテ昭和二年二月富

洲原町、富田町、鳥羽町ニ委員ヲ設置シ目下十三方面九十七名ノ委員ヲ算スルニ至レリ經費ハ縣特別會計タル慈惠救濟費ヨリ支出シ昭和二年度豫算ハ二千圓ヲ計上セリ然リト雖各委員ニ對シテハ何等ノ手當ヲ支給セズ全部無報酬ニテ精神的活動ヲ爲ス設置以來日尚淺キニ不拘相當ノ成績ヲ收メツヽアルノ狀況ナリ

設置地域名		設置年月日	委員數
津	市	大正十二年十二月二十七日	一一名
宇治山田	市	同	二〇名
四日	市市	同	六名
桑名郡桑名	町	同	一一名
同	大山田村	同	三名
同	益生村	同	二名
安濃郡新	町	同	二名
阿山郡上野	町	同	一二名
飯南郡松阪	町	同	一八名
阿山郡城南	村	同 十三年二月十二日	
三重郡富洲原	町	同 年三月十二日	四名
同	富田町	昭和二年二月十五日	三名
志摩郡鳥羽	町	同 同	三名
		同 同	二名

（大正十二年六月縣告示第二百五十八號
大正十五年七月縣告示第三百七十號改正）

第一條　社會的施設ニ資スヘキ各般ノ調査ヲ爲シ社會ノ福利增進ヲ圖ル爲必要アル地方ニ方面委員ヲ置ク

第二條　方面委員ハ篤志者關係市町村吏員警察官吏學校關係者神職宗教家社會事業關係者等ノ中ヨリ知事之ヲ囑託ス

第三條　方面委員ハ名譽職トシ任期ヲ三年トス
方面委員ニ闕員ヲ生シタルトキハ補闕ス補闕委員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

第四條　方面委員ノ職務左ノ如シ
一、一般社會生活ノ實狀ヲ調査シ之カ改善向上ノ方法ヲ攻究スルコト
一、特ニ必要アルモノニ付テハ戸別的ニ其ノ生活狀態ヲ調査シ之ニ對シ匡濟方法ヲ講スルコト

第五條　方面委員ノ調査攻究ノ結果ニ依ル事業ノ實施ハ主トシテ市町村公益法人及有志ノ施設ニ俟ツモノトス

第六條　方面ノ區域ハ市町村ノ區域ニ依ル

第七條　方面委員ヲ設置スヘキ地方並其ノ員數ハ知事之ヲ定メ其ノ都度告示ス

第八條　方面委員ノ事務ヲ處理スル爲社會課ニ有給ノ方面書記一名ヲ置ク

第九條　各方面ニ委員ノ互選ニ依ル常務委員一名ヲ置ク常務委員ノ任期ハ一年トス

第十條　各方面ニ於ケル聯絡統一ヲ圖ル爲常務委員會ヲ設ク常務委員會ハ知事ニ於テ隨時之ヲ招集ス

第十一條　常務委員會ニ幹事若干名ヲ設ク幹事ハ縣社會課員中ヨリ知事之ヲ囑託ス

第十二條　方面委員ヲ置ク地ノ市町村長及其ノ市町村ヲ管轄スル警察署長ニ方面參事ヲ囑託ス

第十三條　知事ハ特別ノ必要アル場合ニ於テハ顧問ヲ囑託スルコトアルヘシ

第十四條　方面委員ノ旅費額及其ノ支給方法ハ別ニ之ヲ定ム

方面書記ノ旅費ハ他ノ官職ニ在ル者ハ其ノ官職相當ノ旅費ヲ支給シ他ノ官職ナキ者ハ縣書記相當ノ旅費ヲ支給ス

方面書記ノ俸給並旅費ハ方面委員諸費ヨリ支給ス其ノ支給方法ハ三重縣給與規程ヲ準用ス

附　則

本令ハ大正十五年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ方面委員ノ職ニアルモノノ任期ハ本令施行ノ日ヨリ起算ス

方面委員ニ關スル旅費額並旅費支給方法　（大正十五年七月縣告示第三百七十一號）

方面委員及常務委員其ノ總會ニ出席シ又ハ知事ニ於テ出張ヲ命シタル場合ハ旅費ヲ支給ス

前項旅費額ハ三重縣給與規程第十一表中二等月俸八十五圓以上ニ相當スル額トシ其ノ支給ノ方法ハ三重縣給與規程ヲ準用ス但シ定額以內ニ於テ打切支給ヲ爲スコトヲ得方面參事並顧問等ニ對スル旅費額ハ其ノ時々之ヲ定メ支給スルコトヲ得

三重縣方面委員執務要項

一、方面委員進退ニ關スル事項

（一）　方面委員病氣其ノ他己ムヲ得サル事由ニ因リ三ケ月以上ニ亘リテ執務スルコト能ハサルトキ若クハ辭職ヲ申出ムトスルトキハ市町村長ヲ經テ知事ニ屆出ツヘシ市町村長前項辭職ノ申出ヲ受理セシトキハ事由ヲ調査シテ具狀スルト共ニ後任者ヲ內申スヘシ後任者ノ內申書ニハ當該市町村ヲ管轄スル警察署長ノ意見書ヲ添附スヘシ

（二）　方面委員解嘱ノ場合ハ直チニ取扱事務保管品一切ヲ後任者ニ引繼クヘシ

二、方面委員執務心得ニ關スル事項

（一）　方面委員一人ノ受持世帶數ハ大凡三百戶ヲ標準トシ事情ニヨリ五百戶迄增加スルコトヲ得其ノ設置地域並員數ハ當該市町村長ノ意見ヲ徵シ知事之ヲ定ム

（二）　方面委員ハ隨時分擔地域內ヲ巡視シ又ハ家庭ノ訪問ヲ爲スヘシ

（三）　方面委員ハ常ニ關係官公衙各種公共團體社會事業諸機關等ト密接ナル聯絡ヲ保チ

一般社會狀態及生活狀態ノ眞相ヲ知悉スルニ努ムヘシ

（四）方面委員ハ職務ノ性質ニ鑑ミ其ノ擧措ニ注意スルハ勿論家庭訪問ニ際シテハ懇切叮嚀ヲ旨トシ苟モ不快ノ念ヲ抱カシメサル樣留意スヘシ

（五）方面委員ノ取扱事務ハ多ク他人ノ身上ニ關スル事項ナルヲ以テ秘密ヲ嚴守スヘシ

（六）方面委員ハ生活有兒其ノ他諸般ノ事項ニ付助力ノ申出ヲ受ケタルトキハ懇切ニ事情ヲ聽取シ機宜ノ方法ヲ講シ相當機關ニ紹介斡旋スルハ勿論必要アルトキハ進テ指導助力ヲ爲スヘシ

（七）方面委員ニハ所定ノ調査臺帳用紙名刺手帳徽章及提灯ヲ交付ス

（八）方面委員ハ左記ノ簿冊ヲ備ヘ隨時記入整理ヲ爲ヘシ

一、調査臺帳（カード式第一號樣式）

一、事務日誌

一、文書綴

（九）方面委員ハ其ノ取扱ヒタル事項ヲ類別シテ所定ノ用紙ニ記入シ毎年六月十二月ノ末日ヲ期シ翌月十日迄ニ市町村長ヲ經テ知事ニ報告スヘシ

三、方面委員ノ調査取扱ニ關スル事項

（一）調査臺帳ハ一世帶ニ付三通ヲ作成シ其ノ一通ハ市役所町村役場ニ提出シ一通ハ市役所町村役場ヲ經テ縣ニ送附シ一通ハ自ラ保管スヘシ

（二）調査臺帳及之カ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ之カ加除訂正ヲ爲シ市役所町村役場ヲ經テ縣ニ通報スヘシ

（三）調査臺帳ハ大要左記ニヨリ記入スヘシ

生活票ノ記入ハ必ス墨又ハ「インキ」ヲ以テスルコト

世帶

イ、世帶ニハ普通世帶ト準世帶ノ二種アルモ生活票ノ世帶トハ普通世帶ヲ意味スルモノトス

ロ、普通世帶トハ住居及家計ヲ共ニスル家族ノ集團ヲ云フ

ハ、一人ニテ住居ヲ有シ家計ヲ立ツル者モ亦一ノ普通世帶トス

ニ、家計ヲ共ニスルモ別ニ住居ヲ有スル者ハ住居ヲ異ニスル毎ニ各一ノ普通世帶トス

ホ、住居ヲ共ニスルモ別ニ家計ヲ立ツル者ハ家計ヲ異ニスル毎ニ各一ノ普通世帶トス

ヘ、間借自炊ヲ爲セル者ハ別ノ普通世帶トス

年齡

年齡ハ「呼ピ年」ヲ記入スルコト

職業

職業ハ農工商等ノ如ク總稱ニ依ラスシテ如何ナル種類性質ノ職業ナリヤ一見直ニ知リ得ル樣細別シ日常ノ稱呼ニ基キ記入スルコト

本業副業ノ別
本業トハ主トシテ一身ヲ委スルモノヲ稱シ其ノ區分判明ナラサルトキハ收入額ノ多キモノヲ以テ本業ト定ムルコト
職業所得
一定ノ職業ヲ有セス單ニ恩給手當年金等ノ收入ニ依リ生計ヲ立ツル者ハ同欄ニ恩給手當年金等ト附記シ其ノ收入額ヲ記入スルコト又官衙傭人或ハ職工等ノ如ク一定ノ賃銀ヲ受クル者ハ其ノ制度ニヨリ日給又ハ月給額ヲ、收入不定ノモノニ就テハ一ケ年ノ收入見積額ヲ記入スルコト
教育程度
文字ナキ者　略號（無）
假名ヲ知ル者　（假名）
尋常中途退學　（尋退）
尋常卒業若ハ之ト同等ノ學力アル者　（尋卒）
高等小學中途退學　（高退）
高等卒業若ハ之ト同等ノ學力アル者　（高卒）
中學中途退學　（中退）
中學校卒業若ハ之ト同等ノ學力アル者　（中卒）

嗜好
嗜好物中酒ニ付テハ特ニ其ノ一日ノ飲量ヲ記入スルコト
宗教及貧困原因
別ニ示シタル分類ニヨルコト
記入事項ナキ欄ハ斜線ヲ以テ閉鎖スルコト
裏面備考欄記入事項
（イ）一家生活ノ狀況
（ロ）非現在家族ノ氏名職業並其ノ生活狀況
（ハ）失踪者ノ氏名
（ニ）家族ニアラザル同居者ノ氏名職業
（ホ）戸籍未整理ノ家族ニ付テハ世帶主トノ續柄及其ノ整理シ得サル理由
（ヘ）私生子庶子ニ付テハ內緣ノ夫婦間ニ生レタル者ト其ノ他ノ者トノ區分
（ト）犯罪者ニ付テハ犯罪ノ種類年月日刑期罰金額等
（チ）宗教ニ非サルモ宗教ニ類似ノ信仰若ハ迷信ヲ有スルモノハ其ノ旨ヲ記入スルコト
（リ）扶養義務者ノ扶養額及公私團體ヨリ受クル救助金ノ如キハ其ノ金額並其ノ救助ヲ受クル團體若ハ個人名救助ヲ開始セラレタル年月日等ヲ記入スルコト

宗　教

佛　教

眞宗、禪宗（臨濟宗、曹洞宗、黃檗宗）淨土宗（融通念佛宗、時宗）日蓮宗、眞言宗（新義眞言宗、眞言律宗）天臺宗、律宗、法相宗、華嚴宗

神　道

神道、禊教、大社教、天理教、金光教、黒住教、修成教、扶桑教、神習教、大成教、實行教、神理教、御嶽教

キリスト教

日本聖公會、日本洗禮教會、日本基督教會、其他

（四）取扱事項ニ付テハ大要左記概目ニヨルヘシ

生活狀態ノ調査

分擔地域内ノ左記ニ屬スルモノニ付イテハ其ノ生活狀態ヲ調査シ調査票ニ登錄スルコト

イ、第一種ニ屬スルモノ

獨身ニシテ自活シ得サル者、獨身ニアラサルモ扶養者ナク自活ノ途ヲ得サル者及疾病其ノ他ノ事由ニ依リ自活困難ナル者

ロ、第二種ニ屬スルモノ

辛ウシテ自活シ得ルモ一朝事故ニ遭遇スルトキハ忽チ自活困難ニ陷ル虞アルモノ

生活ノ保護

イ、生計困難ナル者ニ對シテハ其ノ實狀ヲ調査シ之ヲ除去スルノ方法ヲ攻究スルコト

ロ、軍人家族遺族及廢兵ニシテ生計困難ナル者アル場合ハ軍事救護法ニ依ル救護法及軍人援護資金等ノ救助ヲ受ケシムルコト

ハ、老衰、幼弱、不具、廢疾等ノ爲自活シ能ハサル者アルトキハ其ノ扶養ニ付親戚故舊ニ謀リ若ハ隣保市町村ヨリノ救助方法ヲ考究シ尚足ラザルトキハ恤救規則（大正恩賜賑恤基金規程ニ依リ救濟其ノ他適當ナル方法ヲ以テ生活ノ途ヲ講スルコト

ニ、懶惰ノ風ニ染ミ遊逸徒食シテ勞働ヲ厭ヒ誠實業務ニ從事スルヲ欲セス爲ニ貧困トナリ又ハ貧困トナル虞アル者ニ對シテハ懇切ニ說諭ヲ加ヘ之カ善導ニ努力スルコト

ホ、失業者ニ付テハ其ノ狀態及思想ニ留意シ慰安督勵ヲ加ヘテ其ノ惡化ヲ防キ職業紹介機關等ト謀リ其ノ他適當ノ方法ニ依リ就職口ヲ得セシムルコト

ヘ、釋放人ニ付テハ釋放後親族近隣等ノ之ニ對スル仕向及本人ノ思想行動ニ留意シ常ニ刑務所保護機關職業紹介機關等ト連絡シ改過遷善ノ實ヲ擧ケシムルコト

ト、常ニ生計上餘裕ナキ者ニ對シテハ副業ノ斡旋奬勵等ニ依リ收入增加ノ途ヲ指示シ貯蓄其ノ他ノ方法ニ依リ恒產ヲ有セシムル樣誘導スルコト

チ、高利ノ借財ニ苦ム者ニ對シテハ低利ニ借替方ヲ斡旋スルコト

リハ救濟ヲ爲ス要アル場合ハ可成金品ノ施與ヲ避ケ已ムヲ得ス之ヲ爲ス場合ニ於テハ濫救ニ陷ラサル樣注意スルコト

又ハ簡易生命保險規約貯金產業組合等ニ加入セシメ又ハ郵便貯金銀行貯金ヲ爲ス樣勸告斡旋ヲ爲スコト

兒童並少年少女ノ保護

イ、妊婦產婦アルトキハ產前產後ニ於テ醫師又ハ產婆ノ診察ヲ受ケシムルハ勿論必要ト認メタルトキハ相當注意ヲ與ヘ母子ノ健康ヲ圖ルコト

ロ、幼兒ノ爲生業ヲ妨ケラルヽ者又ハ幼兒ノ保護敎養ヲ充分ニ爲スコト能ハサル者アルトキハ之カ保育ヲ相當機關ニ委托セシムル等適當ノ手段ヲ講スルコト

ハ、育兒ニ關シ母姉ノ知識乏シキ者ニ對シテハ育兒方法ニ付相當注意ヲ與フルコト

ニ、繼子貰子里子私生兒ニ對シテハ特ニ營養狀態ニ意ヲ拂ヒ養育不適當又ハ虐待ヲ受クル者アルトキハ父兄ニ相當注意ヲ加ヘ尙不充分ナルトキハ相當手段ヲ講スルコト

ホ、棄兒遺兒迷兒ノ保護ニ關シテハ相當ナル手段ヲ講スルコト

ヘ、義務敎育未就學兒童ニ對シテハ公費就學奬勵金ノ交附其ノ他資產家宗敎家等ノ篤志ニ訴フル等適當ナル方法ヲ講シ就學セシメルコト

チ、不良少年少女浮浪少年少女犯罪少年少女並精神病白痴盲啞低能不具癈疾等ノ兒童又ハ少年少女ノ保護方法ヲ講スルコト

戶籍ノ整理

イ、內緣ノ夫婦私生兒等變態的家庭關係ノ者アルトキハ屆出ノ世話ヲ爲スコト

ロ、出生屆未了ノ者ニ對シテハ屆出ノ世話ヲ爲スコト

ハ、無籍者ノ發見ニ努メ就籍セシムルコト

ニ、寄留者ノ整理ヲ爲スコト

社會衛生

イ、家庭訪問ニ際シ患者アルコトヲ發見シタルトキハ醫師ノ視察ヲ受ケシメ又貧困ノ爲醫師ノ診察ヲ受クルコト能ハサル者ニ對シテハ濟生會赤十字社其ノ他相當救療機關ニ紹介斡旋ヲ爲スコト

ロ、種痘ノ濟否ニ注意シ且癩結核トラホーム患者アルトキハ醫師ノ診察ヲ受ケシメ又相當機關トノ聯絡ヲ保チ法令ノ趣旨ヲ徹底セシムルコト

ハ、部內ノ住宅上水下水等特ニ不良ナルカ其ノ他一般衛生上改善ヲ要スル事項ニ對シテハ機宜ノ方法ニ依リ之カ改善ノ途ヲ圖ルコト

雜　件

イ、貧家ノ子弟ニシテ學業特ニ優秀ナルモ進ヲ就學シ得サル者ニ對シテハ父兄ノ相談ヲ請ヒ又ハ篤志者ニ訴フル等之カ解決ニ努ムルコト

ロ、不良住宅ノ改良ニ努ムルコト

四、方面委員打合會ニ關スル事項、委任

（一）各方面ニ於テ毎月或ハ隔月毎ニ日時ヲ定メ方面委員打合會ヲ開催スヘシ但シ必要アルトキハ臨時打合會ヲ開催スヘシ方面委員打合會ノ開閉ニ關スル事項ハ常務委員之ニ當ル常務委員缺席セルトキハ委員ノ互選ニ依ル

（二）方面委員打合會ヲ開會セムトスルトキハ其ノ事項ヲ具シ市町村長ヲ經テ知事ニ報告スヘシ

（三）方面參事ハ打合會ニ臨席發言スルコトヲ得

（四）方面委員打合會ヲ開催シタルトキハ其ノ狀況ヲ左記ノ例ニヨリ知事ニ報告スヘシ

方面委員打合會狀況報告書

一、開會　年月日時

一、出席委員氏名

一、出席關係者氏名

一、司會者氏名

一、打合事項議事ノ大要

一、其他

一、閉會　年月日時

五、常務委員ニ關スル事項

（一）常務委員會ハ知事又ハ其ノ代理者之ヲ司會ス

（二）議案ヲ提出セムトスル者ハ關會三日前迄ニ之ヲ縣社會課ニ送附スルモノトス

（三）常務委員ノ請求ニヨリ必要アル場合ニ於テハ方面委員其ノ他ノ者ヲ會議ニ列セシメ發言セシムルコトヲ得

六、其ノ他ニ關スル事項

（一）方面委員及關係員ハ職務執行ニ當リテハ必ス所定ノ徽章ヲ佩用スルト共ニ名刺手帳及夜間ニアリテハ提灯ヲ携帶スヘシ

（二）方面委員ハ必ス所定ノ門標ヲ掲揚スヘシ

【貧困原因】

(1) 個人的關係
- 精神的：賭博・情慾ノ亂用・飲酒・浪費・惡習慣（怠惰・不規律）無教育（技術拙劣無能）
- 生理的：虛弱・不具・疾病（住宅不良・非衛生的職業其他）老衰遺傳性（花柳病盲啞聾癩）瘋癲白痴

(2) 家族的關係
- 係累過多・主働者ノ死亡・失踪・入監・離婚・家族ノ疾病又ハ死亡家政ノ拙劣（戸主・主婦）家庭ノ不和

(3) 職業的關係
- 商業又ハ事業ノ失敗・失業・轉業・投機

(4) 社會的關係
- 物價騰貴・勞働需要ノ缺乏・教育ノ缺陷・耕地不足・親戚部落ニ對スル失費ノ過多・生活ノ上進

(5) 自然的關係
- 天災地變（地震・暴風・洪水旱魃・大火災・虫害・霜害・降雹）地理的關係（土地不良・氣候ノ不順）

(6) 其他ノ原因
- 不時ノ災難・他人ノ債務保證・高利ノ負債・分家・其ノ他

○

生活調査票

方面　年　月　日調査　受持委員

第　種　第　號

世帶主		家族ノ狀況					
本籍		世帶主ト／關係	氏名	數へ年	本業	副業	收入
現住所							
本業	本業ノ收入　月						
副業	副業ノ收入　月						
教育程度	勤怠						
宗教	健否						

氏名	年　月　日生　歲	備考

住宅ノ狀況							其他
自宅又ハ借家ノ別	坪數	室數	疊數	家賃	同居ノ有無	家屋ノ類別	

生計		資産		
月總收入	月總支出	動産	不動産	見積價額	負債

貧困原因		救助					削除理由
主因	副因	種別	個人	市町村	團體	國縣	※
		名稱				※	
		金額					
		開始年月日					

備考　總收入金額中ニハ救助金額ヲ加算セサルコト※ハ縣ニ於テ記入ス

保護救濟指導ノ方法及其ノ經過

市町村長認印	常務委員認印	受持委員認印

年月日　取扱方法及經過

方面			
年月日調査	第種	第號	世帶主氏名

市町村長認印	常務委員認印	受持委員認印

年月日　取扱方法及經過

（八）三重縣社會事業協會（三重縣學務部社會課內）

縣內ニ於ケル社會事業ノ聯絡統一ヲ圖ル目的ヲ以テ大正六年十一月二十五日創立シ當初三重縣慈善協會ト稱セシカ大正九年八月三重縣社會事業協會ト改稱ス現ニ二十四個團體ノ會員ヲ有シ會長ニ知事副會長ニ學務部長ヲ推薦スル大正十二年十二月地方改善ニ資スル目的ヲ以テ更ニ本會ニ融和部ヲ設ケ國費ヨリ本年度金二千五百圓ノ補助ヲ受ケ別途會計トシテ融和ヲ圖リツツアリ本會々則並昭和二年度豫算及融和部豫算並大正十五年中施行事業ノ主ナルモノ左ノ如シ

三重縣社會事業協會々則

第一條　本會ハ三重縣社會事業協會ト稱ス

第二條　本會ハ事務所ヲ三重縣學務部社會課ニ置ク

第三條　本會ハ三重縣內ニ於ケル感化救濟其ノ他ノ社會事業相互並社會事業ト一般社會トノ聯絡ヲ圖リ且其ノ健全ナル發達ヲ期スルヲ以テ目的トス

第四條　本會ハ前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、每年數回懇談會ヲ開クコト

二、社會事業ニ關スル講演會ヲ開催スルコト

三、社會事業ト特志家トノ聯絡ヲ圖ルコト

四、社會事業ヲ指導誘掖シ且其ノ經營方法ヲ幇助スルコト

五、社會事業ニ關スル行政ヲ翼贊スルコト

六、其ノ他役員會ノ決議ニ依リ必要ト認メタル事項

第五條　本會ハ每年一回總會ヲ開キ前年度中ノ事務及會計ニ關スル報告ヲ爲シ其ノ他必要ナル事項ヲ決議ス

第六條　本會ハ會員ヲ分チ特別會員及普通會員ノ二種トス特別會員ハ本會ニ功勞アル者及

學識名望アル者又ハ特別出資其ノ他ノ方法ニ依リ本會ノ事業ヲ援助スル者ノ中ニ就キ役員會ノ決議ヲ經テ推薦ス

通常會員ハ會費トシテ毎年金五圓ヲ納ムルモノトス

第七條　本會ノ會員タラント欲スル者ハ住所氏名ヲ記シテ申出ツヘシ威化救濟其ノ他社會事業ニ關スル團體ニシテ本會ノ會員タラント欲スル者ハ其ノ團體名稱及所在地ヲ記シ代表者ノ名ヲ以テ申出ツヘシ

會員ノ住所氏名又ハ團體ノ名稱所在地若ハ代表者ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨申出ツヘシ退會セムトスルトキハ其ノ旨屆出ツヘシ

第八條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會長　一名
二、副會長　一名
三、理事　五名

理事中常務理事一名ヲ置ク

會長、副會長理事ヲ以テ役員會ヲ組織ス

役員會ニ於テハ豫算決算其ノ他重要ナル事項ヲ議決ス

役員會ノ議長ハ會長之ニ當リ其ノ議事ハ出席員ノ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第九條　會長ハ三重縣知事ヲ推擧ス

副會長ハ三重縣學務部長ヲ推擧ス

常務理事ハ理事ノ互選ニ依ル

第十條　選擧ニ依ル役員ノ任期ハ二年トス

役員中ニ缺員ヲ生シ補缺ノ必要アルトキハ補缺選擧ヲ行フ

補缺員ハ前任者ノ任期ヲ繼承ス

役員ハ任期滿了後ト雖後任者ノ就職スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第十一條　會長ハ會務ヲ總理シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

理事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ處理ス

第十二條　本會ニ評議員若干名ヲ置ク

第十三條　評議員ハ役員會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ囑託ス

評議員ハ本會ノ重大ナル事項ニ關シ會長ノ諮問ニ答申スルモノトス

評議員中官公吏ノ職ニ在ル者ノ任期ハ其ノ在任期間中トス

第十四條　本會ハ必要ニ應シ主事ヲ置ク主事ニハ手當ヲ給スルコトヲ得

主事ハ會長之ヲ任免ス

主事ハ役員ノ指揮ヲ受ケ庶務會計ニ從事ス

第十五條　本會ノ經費ハ左ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

一、會費

二、補助及寄附ノ金品

三、其ノ他ノ收入

第十六條　本會ノ會計年度ハ每年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第十七條　本會則ノ施行ニ必要ナル細則ハ役員會ノ議決ヲ經テ會長之ヲ定ム

附　則

第十八條　從前ノ會則ハ大正九年十月二日限リ之ヲ廢止ス

三重縣社會事業協會昭和二年度歲入歲出豫算

歲入

第一款	雜收入	一〇四円
第二款	會費	一〇〇
第三款	補助金	一、二〇〇
第四款	下付金	一
第五款	寄附金	三四六
第六款	繰越金	四〇〇
合計		二、一五一

歲出

第一款	事務費	三三〇
第二款	會議費	一〇〇
第三款	事業費	一、五二一
第四款	積立金	一〇〇
第五款	豫備費	一〇〇
合計		二、一五一

融和部昭和二年度歲入歲出豫算

歲入

第一款	繰越金	二、〇〇〇円
第二款	寄附金	一、〇〇〇
第三款	國庫補助金	三、〇〇〇
第四款	縣補助金	二〇〇
第五款	雜收入	五〇
合計		六、二五〇

歲出

第一款	融和部諸費	六、〇五〇
第二款	豫備費	二〇〇
合計		六、二五〇

三重縣社會事業協會大正十五年中重要事項

一、二月十一日　社會事業功勞者左記二名ヲ表彰セリ

小林源六
松本長藏

一、二月二十四日　本縣ヨリ事業助成ノ爲メ金參百五拾圓下付セラル
一、四月二十一日　本縣ヨリ事業助成ノ爲メ金一千圓下付セラル
一、四月二十一日　方面委員事業宣傳ノ爲メ「愛ノ新生」活動寫眞ノフイルムヲ購入ス
一、六月十四日ヨリ六日間三重縣佛教會ト聯合シテ左記講師ヲ聘シ四日市市、安濃郡新町、宇治山田市ノ三ヶ所ニ於テ地方社會事業講習會ヲ開催シ三百二十四名ニ講習證書ヲ授與セリ

大阪府嘱託　牧野虎次
名古屋　佛教聖典普及會　木津無庵

一、六月二十八日　會則第二條及第九條中副會長内務部長トアルヲ學務部長ト改正ス
一、七月一日　小島副會長退職栗田學務部長副會長ニ就任ス
一、七月十二日　縣農會樓上ニ於テ大正十五年度總會ヲ開催シ左記事項ヲ附議セリ

1 理事改選ノ件
橋井常務理事退職、田淵社會課長常務理事ニ就任
2 大正十四年度歲入歲出決算報告ノ件

3 大正十四年度施行事業報告ノ件
4 會則改正報告ノ件
5 大正十五年度豫定事業遂行ノ件

一、七月二十二日　理事會ヲ開催シ社會事業宣傳方法ニ關シ協議セリ
一、七月二十七日　橋井前常務理事ヘ感謝狀ヲ贈ル
一、九月二十八日　山岡會長退職遠藤新知事會長ニ就任ス
一、十月二十六日ヨリ五日間旅費ヲ補助シ會員八名ヲ引率シ滋賀、兵庫ノ二縣ニ於ケル社會事業ヲ視察セリ
一、十一月三日ヨリ二日間旅費ヲ補助シ社會事業從事員五名ヲ引率シ奈良、大阪ニ於ケル社會事業ヲ視察セリ
一、十一月五日ヨリ四日間三重縣佛教會ト聯合シテ左記講師ヲ聘シ名賀郡名張町、一志郡久居町ニ於テ地方社會事業講習會ヲ開催シ百二十六名ニ講習證書ヲ授與セリ

龍谷大學教授　海野幸德

●ニ三重縣佛教會（三重縣學務部社會課内）

時勢ノ推移ト思想ノ動搖トニ鑑ミ民衆ノ敎化社會ノ改良ニ貢獻セシムル目的ヲ以テ各郡市ニ佛敎團ノ組織ヲ勸奬シ各宗派聯合ノ下ニ社會的ニ活動ヲ促シタルカ大正九年末ニ至リ

漸ク之カ成立ヲ見ルニ至リタルヲ以テ縣ハ之カ統一聯絡ノ要アルヲ認メ大正十年三月縣佛教會ヲ創立シ縣知事之カ會長タリ創立以來日尚淺ケレドモ講習會ヲ開催セルコト五回就レモ盛會裡ニ其ノ目的ヲ遂ゲ其ノ他總會縣外社會事業視察並補助各郡市佛教團事業費補助巡回活動寫眞講演會等ヲ擧行セリ大正十五年度ニ於テハ六月縣社會事業講習會ヲ四日市市、宇治山田市、安濃郡新町ニ開催シ更ニ十一月名張町、久居町ニ同樣開催シ成績ヲ收メツヽアリ

三重縣佛教會々則

第一條　本會ハ三重縣佛教會ト稱シ縣内各郡市佛教團ヲ以テ組織ス

第二條　本會ハ佛教各宗派相協力シテ尊皇愛國ノ誠ヲ輸シ民衆ノ教化社會ノ改良ニ努ムルヲ以テ目的トス

第三條　本會ハ事務所ヲ三重縣廳社會課内ニ置ク

第四條　本會ハ第二條ノ目的ヲ達セムカ爲官公署諸團體ト聯絡提携シテ左ノ事業ヲ行フ

一、民力涵養地方改良ニ關スル事業

二、人心ノ指導教化ニ關スル事業

三、適切ナル社會的事業

四、智德ノ修養ニ關スル事業

五、其ノ他本會ノ目的ヲ達スルニ必要ナル事業

第五條　本會ニ會長一名、副會長三名、顧問若干名、理事若干名、代議員若干名、幹事若干名ヲ置ク

會長ハ一切ノ會務ヲ綜理ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ之ニ代ル

顧問ハ會長ノ諮問ニ答ヘ重要ノ會務ニ參與ス

理事ハ會長ノ命ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

代議員ハ各郡市佛教團ヨリ一名ヲ選出シ會長ノ召集ニ應シ本會ノ豫算ヲ議決シ決算ヲ認定シ其ノ他重要事項ヲ議決ス

幹事ハ會長以下ノ命ヲ承ケ事務ヲ處理ス

第六條　會長ハ三重縣知事、副會長一名ハ三重縣内務部長ヲ以テ之ニ充テ其ノ他ノ役員ハ會長之ヲ囑託ス

第七條　本會ノ經費ハ縣補助金、郡市佛教團ノ負擔金及一般ノ寄附金品ヲ以テ支辨ス

第八條　本會ハ毎年一回代議員會ヲ開クモノトス

第九條　會長ハ本則施行ノ爲必要ナル細則ヲ設クルコトヲ得

第十條　本則ノ修正改廢ハ代議員會ノ決議ニ依ル

附則

第十一條　本則ハ大正十年三月十四日ヨリ之ヲ施行ス

三重縣佛教會大正十五年度歲入歲出豫算

歲入

第一款	繰越金	五〇〇円
第二款	會費	六六九、
第三款	雜收入	五、
第四款	縣補助金	九〇〇、
第五款	寄附金	五、
合計		二、〇七九、

歲出

第一款	事務費	三五〇、
第二款	會議費	一五〇、
第三款	事業費	一、四七〇、
第四款	雜費	一〇九、
合計		二、〇七九、

第四　救貧防貧事業

一、窮民救助

本件ニ關シテハ前記大禮記念恩賜賑恤金ノ部ニ記載シタル明治七年十二月太政官達恤救規則ニ該當スルモノト大正四年十一月御即位大典ニ際シ下賜セラレタル大禮記念恩賜賑恤金ニ依リ救助スルモノトアリ而シテ大正十五年中右救助金ニ依リテ救助シタル人員並救助額ヲ郡市別ニ示セハ左ノ如シ

郡市名	恤救規則ニ依ル救助 人員	恤救規則ニ依ル救助 救助金額	大禮記念恩賜賑恤金ニ依ル救助 人員	大禮記念恩賜賑恤金ニ依ル救助 救助金額	合計 人員	合計 救助金額
桑名郡	一〇名	二四円一五	三名	三四円一五	一三名	三七円四〇
員辨郡	一〇	三三、八九	六	一七、五七	一六	五〇、四六
三重郡	五	一六一、五五	一一	三六、七二	一六	五三、二六
鈴鹿郡	二	六八、八五	一四	三一、九六	一六	一〇一、九九
河藝郡	七	二〇二、七	五	八四、五六	一二	二八七、七三
安濃郡	八	三三、二四	四	八九、五六	一二	四〇一、八〇
一志郡	一二	四〇一、九	五	三九、六五	一九	七四一、六三

飯南郡	五名	一七五円二六	一七名	七三二円〇四	二三名	九〇七円三〇
多氣郡	一	三四、〇九	三	二一九、五一	四	二五三、六〇
度會郡	一	七、六五	九	一九七、四六	一〇	二〇五、一一
阿山郡	八	二〇八、一一	一	二六、五七	九	二三四、六八
名賀郡	九	二三〇、二〇	五	一六四、〇七	一四	三九四、二七
志摩郡	一	六七、七二	二	七四、一五	三	一四一、八七
北牟婁郡	一	四一、三八	一	四五、四九	二	八六、八七
南牟婁郡	—	—	—	—	—	—
津市	—	—	三	五三、一三	三	五三、一三
四日市市	一	二六、三三	二	一七二、三一	三	一九八、六四
宇治山田市	五	一二五、一四	五	一三九、七九	一〇	二六四、九三
合計	八五	二、六五一、四一	八六	三、〇三〇、二五	一七一	五、六八一、六六

恤救規則（明治七年十二月太政官達第百六十二號）

一、極貧ノ者獨身ニテ癈疾ニ罹リ產業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ヶ年米一石八斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖𪜈餘ノ家人七十年以上十五年以下ニテ其身癈疾ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一同獨身ニテ七十年以上ノ者重病或ハ老衰シテ產業ヲ營ム能ハサル者ニハ一ヶ年米一石八斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖𪜈餘ノ家人七十年以上十五年以下ニテ其ノ身重病或ハ老衰シテ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一獨身ニテ病疾ニ罹リ產業ヲ營ム能ハザル者ニハ一日米男ハ三合女ハ二合ノ割ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖𪜈餘ノ家人七十年以上十五年以下ニテ其ノ身病ニ罹リ窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スベシ

一同獨身ニテ十三年以下ノ者ニハ一ヶ年米七斗ノ積ヲ以テ給與スヘシ

但獨身ニ非スト雖𪜈餘ノ家人七十年以上十五年以下ニテ其ノ身窮迫ノ者ハ本文ニ準シ給與スヘシ

一救助米ハ該地前月ノ下米相場ヲ以テ石代下ヶ渡スヘキ事

二、行旅病人及行旅死亡人幷　精神病者取扱

1、行旅病人及行旅死亡人

本件ニ關シテハ前記社會事業費ノ部ニ記載シタル明治三十二年三月法律第九十三號行旅病人及行旅死亡人取扱法ニ基キ明治四十一年八月三重縣令第七十五號ヲ以テ左記規程ヲ設ケ取扱ヒツヽアリ既往三ヶ年中ノ取扱數左ノ如シ

大正十五年中　七十一名　大正十四年中　八十名　大正十三年中　五十四名

行旅病人行旅死亡人及其同伴者救護及取扱ニ關スル規程

（明治四十一年八月鄉令第七十五號大正十二年四月同第十一號改正）

第一條　市町村長ニ於テ行旅病人行旅死亡人取扱法ニ依リ行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ヲ爲ストキハ其顚末ヲ知事ニ報告スヘシ

被救護者引取ヲ爲ス者ナキトキハ現ニ救護ヲ爲ス市町村長ニ於テ引續キ其ノ事務ヲ取扱フヘシ

前二項ノ場合ニ於テ救護ノ日數二十日以上ニ及フトキハ二十日毎ニ其ノ情況ヲ報告スヘシ

第二條　前條ノ救護若ハ取扱ニ要スル費用ハ特別ノ事情アル場合ノ外ハ左ノ限度ニ依ルヘシ其ノ救護ヲ公私ノ施設又ハ私人ニ委託シ費用ヲ要スルトキ亦同シ

救護諸費

一、醫師診察料　一回　金貳拾錢以內
一、同　手術料　一回　金五圓以內
一、同診察書料　一通　下等實費
一、藥價　金拾錢以內
一、入院料　一日　金貳拾錢以內
一、食料　一日　金七拾錢以內

以上ノ諸費ハ其ノ郡市醫師會ノ決定額以內

一、療養所借入料　一日　金壹圓以內
一、小屋掛料　一式　金參拾錢以內
一、雜費　被服寢具借入料其ノ他　一日　金拾錢以內
一、薪炭油等ノ諸費　一日　金七拾錢以內
一、護送人夫賃　一人ニ付　一日　金七拾錢以內

送還諸費

一、宿泊料　一夜　金壹圓五拾錢以內
一、晝食料　一度　金參拾錢以內
一、汽車賃、汽船賃、車駕賃　下等實費

附添人ヲ要スルトキハ宿泊料、汽車賃、汽船賃、車駕賃ハ被護者ト同額トシ尙日當金壹圓以內ヲ給ス

取扱諸費

一、屍體檢案及檢案書料　郡市醫師會ノ決定額以內
一、屍體番人費　一人ニ付　一晝夜　金壹圓以內
一、屍體運搬人夫費　一人ニ付　一日　金壹圓五拾錢以內
一、假土葬費　一式　金五圓以內
一、火葬費　一式　金六圓以內

一、廣告料
第三條　官報若ハ新聞紙ニ公告ヲ爲スハ一回ヲ限度トシ看護人、産婆、送還附添人ハ各一人護送人夫、屍體番人、屍體運搬人夫ハ各二人以内トス
第四條　行旅死亡人ノ遺留品及行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ノ用ニ供シタル物件ハ左ノ場合ニ限リ競賣ニ付セサルコトヲ得
一、有價證券ハ時價以上ニ賣却シ得ヘキトキ
一、其ノ他ノ物件ハ見積價格拾圓未滿ナルトキ
第五條　行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護又ハ取扱ノ用ニ供シタル物件ノ賣却代金ハ其ノ救護若ハ取扱費ノ繰替金ニ戻入スヘシ
第六條　行旅病人行旅死亡人及其ノ同伴者ノ救護若ハ取扱ニ係ル費用ノ辨償ヲ求ムルトキハ左ノ書類ヲ添附スヘシ
一、費用計算書
一、仕拂金領收書
一、遺留品又ハ不用品賣却調書
一、其ノ他ノ關係書類
第七條　行旅病人及行旅死亡人取扱法第四條第十一條ニ依リ費用ノ辨償ヲ得タルトキハ計算書ヲ添附シ其ノ旨知事ニ報告スヘシ

2　精神病者

本件ニ關シテハ前記社會事業費ノ部ニ記載シタル明治三十三年三月法律第三十八號精神病者監護法ニヨリ取扱ヒツヽアリ精神病者數並最近三ケ年中ニ取扱ヒタル件數左ノ如シ

精神病者計

	男	女	計
大正十五年中	九四六人	六〇六人	一、五五二人
大正十四年中	九七三	六〇九	一、五八二
大正十三年中	九六二	六二七	一、五八九

同上監置數

	男	女	計
大正十五年中	一四九人	四二人	一九一人
大正十四年中	一四三	三四	一七七
大正十三年中	一三九	三七	一七六

精神病者監護法（抜萃）　明治三十三年三月法律第三十八號

第三條　精神病者ヲ監置セムトスルトキハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ但シ急迫ノ事情アルトキハ假リニ之ヲ監置スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ廿四時間内ニ行政廳ニ届出ツヘシ
前項假監置ノ期間ハ七日ヲ超ユルコトヲ得ス
行政廳ノ許可ヲ受ケテ監置シタル精神病者ノ監置ヲ廢止シタル後三箇年内ニ更ニ之ヲ監置セムトスルトキ又ハ民法第九百二十二條ニ依リ禁治産者ヲ監置セムトスルトキハ行政廳ニ届出ツヘシ
第十條　監護ニ要シタル費用ハ被監護者ノ負擔トシ被監護者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其ノ扶養義務者ノ負擔トス

市區町村長ニ於テ監護スル場合ニ於テ之カ爲要スル費用ノ支辨方法及其ノ追徴方法ハ行旅病人及行旅死亡人取扱法ノ規定ヲ準用ス

三、罹災救助

本件ニ關シテハ前記罹災救助基金ノ部ニ記載シタル明治三十二年三月法律第七十七號罹災救助基金法ニ基キ左記規程ヲ設ケ取扱ヒツヽアリ

罹災救助ニ關スル規程
罹災救助ニ關スル內規
三重縣罹災救助基金管理及支出ニ關スル規程
市町村罹災救助資金補助方法
市町村罹災救助資金補助請求手續
市町村罹災救助資金監督規程

(1) 罹災救助ニ關スル規程 (大正八年三月縣訓令甲第五號 大正十五年七月縣訓令甲第六十五號改正)

第一條　災害ニ際シ罹災救助基金ノ支出ヲ要スト認ムルトキハ市町村長ハ其ノ狀況ヲ詳具シ直ニ之ヲ報告スヘシ

第二條　罹災救助基金ノ救助ヲ請フ者アルトキハ市町村長ハ第一號乃至第八號書式ニ依リ食料其ノ他ノ仕譯書人員調書並資產及納稅調書ヲ差出スヘシ

第三條　罹災ノ狀況ニ依リ避難所、小屋掛、焚出及治療ノ救助ヲ要スト認ムルトキハ市町村長ハ直ニ施行ニ着手シ同時ニ之ヲ報告スヘシ

第四條　市町村長ニ於テ前條ノ救助ヲ施行シタルトキハ第九號乃至第十三號書式ノ仕譯書及物品購買代金若ハ物件借入損料人夫賃等ノ請求書ヲ徵シ之ヲ差出スヘシ

第五條　食料被服小屋掛材料就業ニ要スル資料器具及學用品ノ救助ハ其ノ種類數量日數ヲ指定シ市町村長ヲシテ之ヲ施行セシムルコトアルヘシ

前項ノ場合ニ於テハ市町村長ハ物品購買代金ノ請求書ヲ徵シ之ヲ差出スヘシ

第六條　食料費被服費小屋掛材料費就業費及學用品費ヲ金錢ヲ以テ救助スルノ必要アリト認ムルトキハ市町村長ハ其ノ理由ヲ詳具シ之ヲ申請スヘシ

前項ニ依リ金錢救助ヲ施行シタルトキハ第六號書式ニ依リ第一號乃至第五號仕譯書ニ基ク金錢領收書ヲ徵シ之ヲ差出スヘシ

第七條　罹災救助ニ際シ實費ヲ以テ支出スルモノニシテ其ノ材料又ハ賃金過當ナリト認ムルトキハ之ヲ減額若ハ削除スルコトアルヘシ

附則

本規程ハ大正八年四月一ヨリ之ヲ施行ス

第一號(二通)　食料仕譯書

一白米何程　何市(町村)
(戸主)　何之誰
外何名分
此代金何程
但一石ニ付金何程(下米相場)
内
白米何程　何之誰
但人員何人一人米何合何日分
白米何程　何之誰
但丶丶丶丶
白米何程　何之誰
但丶丶丶丶
右之通ニ有之候也
年月日　右
市(町村)長　何之誰　㊞
第二號(二通)
被服仕譯書
何市(町村)

一被服何人分　(戸主)　何之誰
此代金何程　外何名分
但一人ニ付金何程
内
被服何人分　何之誰
被服何人分　何之誰
被服何人分　何之誰
右之通ニ有之候也
年月日　右
市(町村)長　何之誰　㊞
第三號(二通)
小屋掛材料仕譯書
何市(町村)
一小屋掛材料家族三人以上何戸分　(戸主)　何之誰
同　三人未満何戸分
此代金何程　外何人
但家族三人以上ハ一戸金何程同三人未満ハ一戸金何程
内

小屋掛材料家族三人以上一戸分
同　同　半戸分
同　同　家族三人未満一戸分
同　同　半戸分

右ノ通ニ有之候也

年　月　日

右

市(町村)長　何　之　誰　㊞

第四號(二通)

器具(又ハ學用品費)仕譯書

何市(町村)　何　之　誰

一鍬　何挺　代金何程　一挺ニ付金何程
一鎌　何挺　同　同
一何　々　同　同
一何　々　同　同
計　金何程

外何名分

何　之　誰
何　之　誰
何　之　誰
何　之　誰

内

一鍬　何挺　何業　何　之　誰
一鎌　何挺　何業　何　之　誰
一何　々　何業　何　之　誰

右

市(町村)長　何　之　誰　㊞

(農具ノ救助ヲ請フモノハ別ニ耕作地反別取調書ノ添付ヲ要ス)

第五號(二通)

資料仕譯書

何市(町村)　何之誰　外何名分

一種籾何程
此代金何程一石ニ付何程ノ割
一何　々
此代金、、、、、
一何　々
此代金、、、、、
計金何　程
内
種籾何程
何　々
何　々
右之通ニ有之候也
年月日

右
市(町村)長　何之誰㊞

何之誰
何之誰
何之誰

（種穀ノ救助ヲ請フモノハ別ニ耕作地反別取調書ノ添付ヲ要ス）

第六號（一通）　金錢領收書

一金何程　罹災救助費
内
金何程　食料費
但白米何程分一斗ニ付金何程
金何程　被服費
但被服何人分一人ニ付金何程
金何程　小屋掛材料費
但小屋掛材料費家族三人以上又ハ三人未滿
金何程　器具費
但何々何挺分一挺ニ付金何程
金何程　資料費
但種籾何程分一斗ニ付金何程
金何程　學用品費
但書籍文房具何人分一人ニ付金何程
右領收候也

年　月　日

第七號（一通）

人員取調書（他ヘ寄留又ハ他出不在者ハ除クヘシ）

何郡（市）町村大字番地
何市（町村）
何　之　誰　㊞

姓　名
何年何月何日生
父　名
何年何月何日生
母　名
何年何月何日生
妻　名
何年何月何日生
長男　名
何年何月何日生
何　々

右之通相違無之候也

年　月　日

何年何月何日生
何　之　誰

第八號（一通）

資産及納稅調書

一所有地（地種別）何反歩地價金何程
一建　家（種類別）何棟建坪何程
一所有金預金何程
一何　々（動　産）何個見積價格何程
一何　々、、、
一直接國稅一ヶ年納額何程
一縣　稅　同　上

右之通ニ有之候也

右

市（町村）長　何　之　誰　印

何市（町村）
何　之　誰

年　月　日

第九號（二通）　　焚出諸費仕譯書

一金何程　　何市（町村）ニ係ル焚出シ諸費
　　內
　金何程　　白米何程代
　　但何月何日ヨリ何月何日迄何日間現人員何人此延何人ニ付一日米何程
　　內
　金何程　　白米何程一石ニ付
　金何程　　金何程
　金何程　　白米何程一石ニ付
　　金何程
　金何程　　雜　費
　　但何月何日ヨリ何日迄何日間現人員何人此延何人一人ニ付一日金何程
　　內
　金何程　　梅干何程代

右
市（町村）長　何之　誰　印

　　但一升ニ付金何程
　金何程　　味噌何貫目代
　　但一貫目ニ付金何程
　金何程　　人足賃
　　但何月何日ヨリ何日迄何日間現人員何人此延何人一人一日金何程
　金何程　　何々借入代
　　但云々
　金何程　　何　々
　　但云々
右之通相違無之候也
　年　月　日

第十號（二通）　　小屋掛（或ハ避難所）諸費仕譯書

一金何程　　小屋掛費（或ハ避難所諸費）
　　內
　金何程　　人足何人一人ニ付金何程

市（町村）長　何之　誰　印

金何程
金何程
金何程
金何程
金何程
金何程
但何月何日ヨリ何日迄何日間一日ニ付金何程
金何程
右之通相違無之候也
年月日

何市(町村)長　何之誰印

第十一號(二通)　治療費仕譯書

一金何程
内
金何程
但何月何日ヨリ何日迄何日間何人分延日數何日一日金何程

大工何人一人ニ付金何程
木材何本一本ニ付金何程
竹何束一束ニ付金何程
繩何束一束ニ付金何程
何々、、、、、、
建家借入代
何々、、、、、、

何市(町村)罹災者治療費

醫師手當

金何程
但何藥何服分一服ニ付金何程患者何人何日分
金何程
右之通相違無之候也
年月日

何市(町村)長　何之誰印

第十二號(二通)　運搬用具費仕譯書

一金何程
内
金何程
但延何輛分一輛ニ付一日金何程
金何程
但延何艘分一艘ニ付一日金何程
金何程
但云々
右之通ニ有之候也

何市(町村)運搬用具費

荷車借入料

船借入料

何々借入料

藥價
何々、、、

年　月　日　　市(町村)長　何　之　誰　印

第十三號(二通)　　人夫費仕譯書

一金何程　　何市(町村)人夫費

內　　人　夫　費

金何程

但延何人分一人ニ付一日金何程

右之通ニ有之候也

年　月　日　　市(町村)長　何　之　誰　印

(2)　罹災救助ニ關スル內規　(大正八年三月三十一日番外內訓)

第一條　罹災救助基金ヲ以テ救助ヲ爲スハ左ノ場合ニ限ルモノトス

一　市町村內總戶數十分ノ一以上若ハ市町村內戶數五十戶以上同一ノ災害ニ罹リ救助ヲ要スル者アルトキ

二　市町村內耕作地總反別五分ノ一以上災害ニ罹リタル場合ニ於テ收獲七分以上ヲ失ヒ種穀ノ救助ヲ要スル者アルトキ

三　海上其ノ他ニ於テ三十人以上同一ノ災害ニ罹リ資料又ハ器具ヲ亡失シ其ノ援助ヲ要スル者アルトキ

第二條　罹災者ニシテ直接國稅縣稅ヲ併セ年額五圓以上ヲ納ムル者ハ之ヲ救助セス但シ避難所ニ收容シ焚出ヲ給與シ及治療ヲ施スハ此ノ限ニアラス

前項ニ該當スル者ト雖其ノ生活狀態救助ヲ要スル者ト同一ト認ムルトキハ知事ノ認可ヲ得テ救助スルコトヲ得

(3)　三重縣罹災救助基金管理及支出ニ關スル規程　(明治三十二年八月改正　大正八年三月縣令第五三號　縣令第二六號)

第一條　罹災救助基金ノ管理ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一　現金ハ縣金庫又ハ現金管守者ヲシテ之ヲ保管セシム但シ縣金庫ヲシテ保管セシムルトキハ擔保トシテ其ノ金額以上ノ國債證書、勸業債券、日本興業銀行債券、農工債券、北海道拓殖銀行債券ヲ領置ス

二　國債證書其ノ他ノ財產ハ總テ縣廳ニ於テ保管ス

第二條　罹災救助ノ爲メ食料費、被服費、小屋掛材料費、就業費、學用品費、避難所費、小屋掛費、治療費、運搬用具費、人夫費ヲ支出スルハ左ノ程度ニ依ル

一　食　料　費　　一人　　一日　　白米四合

二　但シ雜費ハ焚出ノ場合ニ限ル　　雜費貳錢

二	被服費	一人	自五月至九月　金貳圓 自十月至四月　金貳圓五拾錢
三	小屋掛材料費	一戸	家族三人以上　金拾參圓 同三人未滿　金拾圓

但シ家屋災害ニ罹ルモ尚小屋掛ヲ營ム用ニ充ツヘキ幾許ノ古材ヲ存スルモノハ半額トシ家族人員ノ計算ハ十五歳未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人トシ同居ノ家族ハ之ヲ算入スス

四	就業費	一戸	金貳拾五圓以内
五	學用品費	一人	金壹圓五拾錢以内
六	實費		
	避難所費		
	小屋掛費		
	治療費		
	運搬用具費		
	人夫費		

第三條　罹災ノ狀況ニヨリ必要ト認ムル場合ニ在リテハ前條第一號及第六號ノ程度以内ニ於テ焚出ヲ爲シ又ハ食料費、被服費、小屋掛材料費、就業費及學用品費ハ金錢ヲ以テ救助スルコトヲ得

(4)　市町村罹災救助資金補助方法（明治三十九年二月縣令第八號　改正　大正十一年五月縣令第四一號）

第一條　市町村ニ於テ其ノ住民ノ災害ニ罹リタル者ヲ救助スル方法ヲ設ケ其ノ資金ヲ蓄積スルトキハ罹災救助基金ヨリ之ヲ補助ス

第二條　市町村罹災救助資金補助額ハ毎年金參萬圓以内ニ於テ其ノ年積立テタル金額ニ對シ同額以内ノ金額ヲ交付シ該資金ニ編入セシム但シ其ノ積立額カ縣ノ補助額ノ二十分ノ一ヲ超ユルトキ又ハ一時ニ資金ノ全部ヲ積立ツル場合ニ在リテハ補助ノ歩合ヲ減スルコトアルヘシ

第三條　罹災救助基金ノ貯蓄額ニシテ罹災救助基金法第三條ノ制限額ヲ下ルコトアルトキハ其ノ制限額以上ニ達スル迄補助ヲ停止ス

市町村罹災救助資金補助請求手續（明治三十九年三月縣訓令甲第八號　改正　大正十五年七月縣訓令甲第六四號）

第一條　市町村罹災救助資金補助方法ニ依リ補助ヲ受ケムトスル市町村ハ其ノ年度ニ屬スル資金ノ蓄積ヲ了シタル後之ヲ請求スヘシ但シ第二條ノ期限ヲ過キ蓄積シタルモノニ在リテハ次年度ニ於テ其ノ年分ト併セ之ヲ請求スヘシ

第二條　前條ノ請求書（別記第一號書式）ニハ資金積立額計算書（別記第二號書式）ヲ添付シ毎年十一月十五日迄ニ支廳ノ管轄ニ屬スル町村ニ在リテハ知事ニ差出スヘシ

第三條　支廳長ニ於テ前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調査シ其ノ集計表ヲ添付シ十一月二十日迄ニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第一號書式

(5)　市町村罹災救助資金補助請求書

一金　　圓也
右罹災救助資金別紙計算書ノ通積立候條頭書ノ補助金御下付相成度此段及請求候也

年　月　日

市(郡)町村長　氏　名　印

知　事　宛

第二號書式

市町村罹災救助資金積立額計算書

一金　　昭和　年度積立豫定額

內

金　　昭和　年　月　日一般會計ヨリ積立額
金　　昭和　年　月　日同上(　回ニ積立タルトキノ例)
金　　補助請求額

一金　　昭和　年度首罹災救助基金現在高

內

金　　現金
金　　預金公債社債券額面若干ノ原價

第一條　市町村ニ於テ罹災救助資金ヲ蓄積スルトキハ左ノ定額ヲ最低限度トシ毎年度ノ蓄積額ハ條例ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

戸數五百戸未滿ノ町村　千五百圓
戸數五百戸以上二千戸未滿ノ町村　參千圓
戸數二千戸以上ノ町村及市　六千圓

預金公債社債券額面若干ノ原價ニ依ルトキハ其ノ時價ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二條　市町村罹災救助資金ハ罹災救助基金法第二條ノ規定ニ該當セサル場合ニ於ケル罹災者ヲ救助スル費用ニ充ツルノ外之ヲ他ノ費途ニ充ツルコトヲ得ス

第三條　市町村罹災救助資金ヨリ生スル收入ハ罹災救助費ニ充テ尙殘餘アルトキハ之ヲ資金ニ編入スヘシ

第四條　市町村罹災救助資金ノ元資ヲ費消スルコトヲ要スル場合ニ於テハ其ノ補充ノ方法ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　市町村罹災救助資金ノ蓄積額第一條所定ノ金額以上ニ達シタル市町村ニ於テハ其ノ永久ノ利益トナルヘキ支出ヲ要スルカ爲若ハ天災事變等ノ爲市町村債ヲ起ス必要アル場合ニ限リ知事ノ許可ヲ受ケ資金二分ノ一以內ノ金額ヲ一般會計ニ繰入ルルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ補充方法ヲ定メ併セテ知事ノ許可ヲ受ヘシ

前項繰入金ノ補充ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ金額及年月日ヲ知事ニ報告スヘシ

第六條　市町村罹災救助資金ノ運用ハ左ノ範圍ヲ出ツルコトヲ得ス

一　國債、地方債又ハ日本勸業銀行、日本興業銀行、三重縣農工銀行ノ債券ノ募集ニ

應シ若ハ其ノ證券ヲ買入ルルコト

二　大藏省預金若ハ郵便貯金トナスコト

三　擔保ヲ徵シ確實ナル銀行ニ利付預ケトナスコト

第七條　市町村罹災救助資金ノ管理及支出ニ關スル方法ハ市町村ニ於テ之ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

(7)　市町村ニ於ケル罹災救助資金現在高（大正十五年七月一日現在）

保管内譯		金額
公債證書	國債證券	一一九、二一〇円
	其ノ他	九四、七九〇
債券	同	九二二、八九〇
株券	同	一〇七、二三〇
預金		二三二、九一三
現金		二、七三八
一般會計ヘ繰入金		二一、二二二
合計		一五〇〇、九九三

二、施藥救療

(イ)　恩賜財團濟生會

明治四十五年五月恩賜財團濟生會ヨリ同會救療事業ノ實施ヲ依託セラレタルヲ以テ縣下公私立病院各開業醫及齒科醫師、藥局ヲ開設セル藥劑師會ニ交涉ヲ遂ケ之カ實施方法ヲ定メ普ク其ノ恩惠ニ浴セムコトヲ期シ諸般ノ事務ニ從事セシムル爲專務事務員ヲ置ク而シテ救療方法ハ警察官吏、市町村長ニ於テ其ノ必要アリト認ムルモノニ對シ治療券ヲ交付シ病院又ハ醫師ニ治療ヲ受ケシム其ノ程度ハ貧困ニシテ醫藥ヲ得ルノ資力ナキ傷病者ヲ救濟スルモノニシテ治療ニ關スル例規及ヒ大正元年度以降ノ各郡市救療患者ハ左記ノ如シ

救療患者表

郡市名	大正元年度	二年度	三年度	四年度	五年度	六年度	七年度	八年度	九年度	十年度	十一年度	十二年度	十三年度	十四年度
桑名	二六人	三一人	三六人	四一人	四七人	四三人	四七人	三五人	三〇人	四三人	二四人	三人	三五人	五五人
員辨	三九	四〇	四八	五三	四一	五〇	四〇	四四	三二	二	二五	一九	一七	二
三重	八四	六八	八〇	七八	四九	四七	五三	四五	六三	六三	七七	九九	七	九七
鈴鹿	一三	二四	四五	四二	四五	四三	六三	四三	二〇	三三	二四	一九	三	三
河藝	三三	三九	八〇	七六	九三	七七	九三	四四	五五	三	三〇	三九	二九	三〇

安濃	一志	飯南	多氣	度會	阿山	名賀	志摩	北牟婁	南牟婁	津市	四日市市	宇治山田市	合計
三	六〇	五六	一八	三	五五	五七	四一	一三	二一	三六	四八	三七	六七〇
一七	一三四	七八	一七	五六	七五	八八	三五	一六	四四	五三	六三	五九	九三五
二四	一三三	六九	二一	四六	六七	九八	四八	一八	二四	三七	七四	五六	一、〇〇三
三三	一四〇	五一	二一	四七	七八	一一〇	四六	二八	三〇	四八	八四	四四	一、〇四八
二八	八七	四八	三一	二八	一三一	一三二	五二	二三	二一	四五	六八	五五	一、〇一五
二四	一三〇	七九	二一	四七	一一四	一四一	五七	二三	一九	一三一	六三	四七	一、一三六
二六	一五二	九八	二四	一五	一七三	一九〇	五三	三六	一三	一一八	九〇	五八	一、三四二
二四	一二三	八〇	一四	三三	一三〇	一八七	二五	一六	一三	六三	九一	四〇	一、〇六八
三二	一一六	七一	一六	一六	一三五	二三三	二〇	三〇	九	八五	八一	三九	一、〇八〇
二九	一八八	八四	二一	九	一五六	一六八	四四	三三	七	七九	九二	五三	一、一四六
一四	二〇二	一〇九	一七	一九	一五七	一一三	二四	一七	四	九〇	六八	三七	一、〇四九
一七	二五八	一四九	二一	六	二〇四	一〇七	二九	一六	八	一〇四	六九	五六	一、二五二
一五	三八	三三	八	八	二五八	九七	二〇	三三	二	一三一	六三	五三	一、二七六
一九	一六六	二六八	七	一七	二五〇	一三一	一六	一三	一四	一二五	五五	六三	一、三三〇

恩賜財團濟生會三重縣救療規程（大正十五年七月縣告示第三五四號）

第一條　本縣住民ニシテ其ノ疾患ニ際シ自カラ醫藥料ヲ支辨スルコト能ハス又ハ扶養義務者ナク若ハ扶養義務者アルモ其ノ義務ヲ履行スル資力ナク施療ヲ受クルニ非サレハ他ニ救療ノ途ナキトキハ本規程ニ依リ恩賜財團濟生會ノ救療ヲ受クルコトヲ得

第二條　救療ハ三重縣醫師會、三重縣齒科醫師會、三重縣藥劑師會ニ委託シテ之ヲ行フ

第三條　第一條ニ依リ救療ヲ受ケムトスル者ハ口頭又ハ書面ヲ以テ所轄市町村長、警察官吏、方面委員、區長又ハ町總代ニ申出ツヘシ

第四條　前條ニ依リ申出ヲ受ケタル者ハ事由ヲ調査シ治療券又ハ處方箋用紙ノ交付手續ヲ爲スヘシ

第五條　第一條ニ依ル救療患者ニ對シテハ所定ノ治療券又ハ處方箋用紙ヲ交付ス

第六條　治療券及處方箋用紙ハ本縣ニ於テ之ヲ定メ豫メ警察署長ニ配付シ警察署長ハ之ヲ市町村長ニ交付ス

第七條　治療券又ハ處方箋用紙ノ交付ヲ受ケタル者ハ第二條ノ會員ニ就キ診療投藥又ハ調劑ヲ受クヘシ但シ重症患者ニ在リテハ第三條ノ事務取扱者ニ申出テ其ノ承認ヲ得テ醫師ノ來診ヲ求ムルコトヲ得

前項但書ノ場合ニ於テ事務取扱者其ノ申出ヲ正當ト認ムルトキハ醫師ノ來診ヲ請求スヘキ證明書ヲ交付スヘシ

第八條　治療券又ハ處方箋用紙ハ診療ノ當初ニ於テ之ヲ主治醫ニ差出スヘシ後日ニ至リ差出シタルトキハ本規程ニ依ル取扱ヲ受クルコトヲ得ス

第九條　治療券又處方箋用紙ノ交付ハ患者一人ニ付一枚トシ治療券ノ有效期間ハ交付ノ日ヨリ三十日トス期間經過後尙繼續シテ治療ヲ受クルコトヲ要スル場合及年度開始ノ際ニ於テハ更ニ治療券ノ交附ヲ受クヘシ

第十條　本規程ニ依リ治療ヲ受クル患者ハ其ノ承認ヲ爲シタル場合ノ外學術研究ノ用ニ供セラルルコトナシ但シ特別ノ事由ニ依リ當該醫師ニ於テ事由ヲ具シテ知事ノ承認ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニアラス

恩賜財團　濟生會三重縣救療事務取扱心得

第一條　恩賜財團　濟生會救療事務取扱ニ從事スル者ハ克ク本會ノ趣旨ヲ體シ一般行政事務ト等シク其ノ處理ニ勵精スヘキハ勿論左記各項ニ付特ニ留意シ其ノ周到ヲ期スヘシ

一、救療患者ニ對シテハ懇切ヲ旨トシ救療ニ際シテハ努メテ簡捷迅速ナルヘキコト

二、救療患者ハ救療規程第一條ニ依リ公私何等ノ救助ヲ受クヘキ途ナキ鰥寡孤獨ノ者及之ニ準スヘキ者ノ中ヨリ選定スルコト

第二條　市町村長、警察官吏、方面委員、區長、町總代ハ常ニ部內ノ住民ニ注意シ救療ヲ要スト認ムル者アルトキハ警察官吏、方面委員、區長及町總代ニ在リテハ市町村長ニ協議シ治療券及處方箋用紙交付ノ手續ヲ爲サシメ最寄醫師ノ診療ヲ受ケシムヘシ

第三條　治療券及處方箋用紙ハ市町村長ニ於テ保管スヘシ但シ區域廣濶ナル市町村ニ在リテハ便宜之ヲ市町村長以外ノ第二條ニ依ル事務取扱者ニ保管セシムルコトヲ得

前項ニ依ヲ治療券ヲ保管スル者ハ急迫ヲ要スル患者ニ對シテハ直ニ之ヲ交付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ所轄市町村長ニ通知シ承認ヲ經ヘシ

第四條　市町村長ハ事務取扱者ト協議シ翌年度ニ於ケル救療見込數ヲ每年五月末日迄ニ警察署長ヲ經テ知事ニ報告スヘシ

第五條　市町村長ハ所定ノ救療臺帳並治療券及處方箋用紙交付簿ヲ備ヘ申請者アルトキハ治療券及處方箋用紙ニ番號ヲ附シテ其ノ都度臺帳ニ登錄シ且ツ交付簿ト契印ヲ爲シテ交付シ其ノ受授ヲ明ナラシムヘシ尙引續キ治療ヲ要スルモノ及新年度ニ於テ交付スヘキ治療券ニハ枝番號（第何號ノ二、二）ヲ附スヘシ

第六條　市町村長ハ救療患者ヲシテ柔リニ病院醫師ノ取替ヲ爲サシメサルコトニ注意スヘシ

第七條　恩賜財團　濟生會々計年度ハ每年七月一日ニ始リ翌年六月三十日ニ終ル

年度ヲ左ノ二期ニ分ツ

前期　自七月一日至十二月三十一日

後期　自一月一日至六月三十日

第八條　有效期間ヲ經過シ其ノ他用濟トナリタル治療券及處方箋ハ診療醫又ハ藥劑師ニ於

テ順次毎月末日限リ市町村長ニ回付シ市町村長ハ其ノ經過ヲ臺帳ニ登錄シタル上翌月五日迄ニ遲滯ナク當該醫師又ハ藥劑師ニ返付スヘシ但シ年度末ニ於テハ診察中ノモノト雖之ヲ打切リ市町村長ニ回付スヘシ

第九條　市町村長ハ前條ニヨリ調査登錄シタル臺帳ニ基キ別紙樣式ニヨリ調査表ヲ作製シ前期分ハ一月十五日後期分ハ七月十五日迄ニ管轄警察署長ニ報告シ警察署長ハ之ヲ集計シ前期分ハ一月二十五日後期分ハ七月二十五日迄ニ報告スヘシ（別紙樣式略）

●ロ　公營醫師（）

本縣志摩郡ノ戶數少キ部落ニ於テハ氣候風土ニ影響ヲ受ケテ醫師ノ需要少ク其ノ他交通不便ナル農村ニ於テハ適當ナル開業者ヲ得ルコト困難ナルヲ以テ町村ニ當時在住セシメテ住民ノ救急其ノ他救恤ヲ受ケシムル爲町村費ヲ以テ補助ヲ爲シ町村醫ヲ囑託スル向アリ今縣下ニ於ケル公營醫師設置ノ市町村並大正十五年度豫算額

市町村名	大正十五年度豫算額
桃取村	五〇〇圓
神島村	一、〇八〇圓
布施田村	二〇〇圓
加茂村	一、二四〇圓
答志村	六五〇圓
菅島村	四三〇圓
坂手村	六〇〇圓
長岡村	八〇〇圓
的矢村	四〇五圓
安乘村	四八〇圓
立神村	五〇〇圓
越賀村	二〇〇圓
畔名村	三八五圓
船越村	二四〇圓
御座村	八〇四圓
津市	三五、四六〇圓
中川村	三〇圓
波瀨村	五、五〇〇圓
倭村	一〇圓
家城村	五〇圓
大杉谷村	四五〇圓
須賀利村	一、〇〇〇圓
船津村	二三〇圓
三野瀨村	七〇〇圓
錦村	一、二〇〇圓
和具村	八〇〇圓
神明村	四二〇圓
甲賀村	三〇〇圓
志島村	四〇〇圓
波切村	七二〇圓
片田村	二〇〇圓
磯部村	一五圓
宇氣鄕村	三〇圓
八ッ山村	一二圓
榊原村	二九三圓
領内村	一、〇〇〇圓
長島町	六〇圓
赤羽村	九〇〇圓
九鬼村	六〇〇圓

實施ノ狀況ハ服務規程又ハ契約書ニ依リ公種痘、トラホーム檢診、治療其ノ他傳染病豫防救治ニ當ラシムル外一般患家ノ申出ニ依リ醫務ニ當ラシム而シテ使用料金ハ醫師會ノ定ムル所ニ依ルモ其ノ住居地區民ニ對シテハ往診料ヲ徵セス

●ハ　無料巡回診療班

經　營　日本赤十字社三重支部

日本赤十字社三重支部ニ於テハ夙ニ本施設ノ必要ヲ認メ大正十一年度以來春秋二季ニ於テ縣下樞要ノ地ニ開催シ來レリ其ノ成績左記ノ通

職　員　一班ノ職員ハ醫師一名、看護婦二名、調劑員一名ヲ以テ組織シ事務員トシテハ附近ノ町村吏員奉仕的ニ從事シ調劑員ハ開催地附近ノ藥劑師ニ囑託ス

場　所　役場、寺院、公會堂等ヲ利用ス

期　間　一ケ所一週間

施療患者　豫メ診療券ヲ郡市役所ニ配付シ郡市役所ニ於テハ大體標準ヲ（縣稅戶數割納付一人平均額ノ二分ノ一以下ノ者）定メ之ヲ交付ス右持參者ヲ患者ト認メ診療ヲ加フ閉鎖ニ際スルモ尙全治ニ至ラサル者ニ對シテハ處方箋ヲ與ヘ或ハ治療法ヲ敎ヘ又ハ施藥等ヲ爲ス

年度別　經費　開設箇所數　診療人員　內全治セシモノ　其ノ他

年度別	經費	開設箇所數	診療人員	內全治セシモノ	其ノ他
大正十一年度	五、〇九〇円	一〇	四、四一〇	九〇九	三、五〇一
同　十二年度	四、八七一	一三	四、一六一	一、二八六	二、八七五
同　十三年度	六、四九六	一七	五、二〇九	二、一九五	三、〇一四
同　十四年度	五、四八〇	一七	四、九〇〇	二、〇八六	二、八一四
同　十五年度	五、六〇一	一四	三、九五七	六八九	三、二六八
合　計	二七、五三八	七〇	二三、六二七	七、一六五	一五、四七二

●ニ　結核早期診斷

（財團法人三重縣結核豫防協會）

經　營　三重縣警察部衛生課內

位　置　大正十年一月

創　立　職員其ノ他會長知事副會長二名理事五名書記八名評議員九一名會員一八、一二〇名

財團法人三重縣結核豫防協會ハ大正十年一月警察部衛生課內ニ創立セラレ以來年ヲ重ヌルコト五年會員並關係者ノ熱誠ナル努力ニ依リ豫定ノ計畫ニ隨ヒ順調ニ其ノ事業ヲ遂行シツツアリ即チ縣下各地ニ巡回活動寫眞宣傳並ニ衛生展覽會ヲ開催シ其ノ他ポスター、印刷物、標語ノ配付等、衛生思想及結核ニ關スル智識ノ普及啓發ニ努メ結核早期診斷所ヲ左記三十八

ケ所ニ設置シテ無料診斷ノ需ニ應シ一面結核病ノ蔓延狀態ヲ窺知スルタメ毎年一齊調査ヲ施行ス尙結核豫防ノ目的ヲ貫徹スル爲四日市市ニ經費貳萬參千八百餘圓ヲ投シテ消毒所ヲ建設シ一般消毒ノ需ニ應シツツアリ更ニ進テ縣下六市街ニ同樣建設ノ計畫ニテ現ニ松阪町ニ於テ新築中ニ屬ス

大正十三年度結核早期診斷受診者ハ二〇五名ニシテ良好ナル效果ヲ收メタリ右診斷所各郡市配置表並昭和二年度豫算左ノ如シ

昭和二年度豫算

結核豫防協會　一三、〇二五圓
消毒所　二、八五五圓

結核早期診斷所配置表

郡市名	診斷所數	受診者數
桑名郡	二	五
員辨郡	三	一
三重郡	二	一七
鈴鹿郡	一	二
河藝郡	四	一
安濃郡	一	一
一志郡	三	一
飯南郡	二	一
多氣郡	二	一
度會郡	一	七
阿山郡	三	一
名賀郡	三	九
志摩郡	三	一
北牟婁郡	一	一
南牟婁郡	三	一
津市	一一	八
四日市市	一	一
宇治山田市	三	一
合計	三八	五二

五、養老院

●(イ)三重養老院

位置　河藝郡一身田町大字一身田三二番地
事業　養老事業
經營　眞宗高田派本山專修寺
職員　院長玉野玄陵外理事四名、主事二名
沿革　眞宗高田派本山專修寺本事業ノ必要ヲ認メ財團法人十萬人講ノ補助金ヲ以テ經營スルニ決シ大正十年六月一日執事加藤忍嚴之カ設立ヲ申請シ知事ノ認可ヲ受ケ光信寺ヲ改造シ之ニ充ツ

現況　大正十五年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金參百圓ヲ補助スル而シテ現ニ男六名女

對照		
大正十四年	三八	一二八
同十三年	三八	二〇五
同十二年	三五	三二四
同十一年	二五	三八七

十名計十六名ヲ收容シ宗教ヲ基礎トシテ何等拘束ヲ加ヘス朝夕自由ニ參詣休養等ヲ爲サシムル等精神的、肉體的慰安ニ努ム

收容者　男十三　女二十八　計四十一名
死亡者　男　八　女　十七　計二十五名

創立以來ノ成績

昭和二年度歲入歲出豫算

歲入

第一款	補助金	三五〇圓〇〇
第二款	寄附金	一〇〇、〇〇
第三款	本山補助金	二、五〇〇、〇〇
第四款	財產收入	六七一、〇〇
第五款	雜收入	六〇、〇〇
第六款	前年度繰越金	六〇〇、〇〇
合計		四、二八一、〇〇

歲出

第一款	事務費	一、一六〇、〇〇
第二款	給養費	二、六五四、〇〇
第三款	院舍借入修繕費	二五〇、〇〇
第四款	積立金	一一一、六〇
第五款	豫備費	一〇五、四〇
合計		四、二八一、〇〇

六、軍事救護

大正六年七月發布ノ軍事救護法ハ同七年一月一日ヨリ實施セラレタルモノニシテ縣ハ同六年十二月縣令ヲ以テ施行細則ヲ制定シ爾來同法ノ趣旨精神ヲ一般ニ諒解セシムヘク機會アル毎ニ之カ宣傳ニ努ムルト共ニ救護ノ徹底ニ關シテハ屢次郡市町村長ニ通牒シテ遺憾ナカラシメ又時々係員ヲ派遣シテ其ノ實況ヲ具ニ調査セシムル外別ニ軍人援護資金中ヨリ本年度ニ於テ金貳千七百圓ヲ愛國婦人會三重支部ニ交付シテ本法ニ該當セサル要救護者ノ救護ニ當ラシメツヽアリ

軍事救護法ニ依ル被救護者調（現金給與）　昭和二年三月十五日現在

郡市名	現役兵ノ家族		下士兵卒ノ遺族		合計	
	戸數人員	金額	戸數人員	金額	戸數	人員	金額
桑名	一戸 三人	四五錢			一戸	三人	四五錢
員辨	二 五	五九	一 二	一三	一	七	一、〇〇

三重	六	二〇	一、八一	一	四	八〇	—	—	—	七	二四	二、六一
鈴鹿	四	一六	二、一六	一	五	五四	一	一	一〇	六	二三	二、八〇
河藝	一三	三一	四、六〇	—	—	—	一	二	一〇	一四	三三	四、七〇
安濃	三	一一	一、〇一	一	六	五一	二	三	五五	六	二〇	二、〇七
一志	五	一四	一、九六	一	四	三五	一	一	一三	七	一九	二、四三
飯南	六	二三	一、六三	二	九	八〇	—	—	—	八	三二	二、四三
多氣	四	二三	一、六一	—	—	—	一	四	二七	五	二六	一、八八
度會	二	四	五一	一	二	三五	—	—	—	三	六	八六
阿山	三	一三	一、九四	—	—	—	二	五	二四	五	一八	二、一八
名賀	一	七	四〇	—	—	—	—	—	—	一	七	四〇
志摩	七	二一	二、四七	一	五	三七	三	九	八四	一一	三五	三、六八
北牟婁	一	一	二八	—	—	—	—	—	—	一	一	二八
南牟婁	六	一六	一、六六	—	—	—	—	—	—	六	一六	一、六六
津市	三	三	七七	—	—	—	—	—	—	三	三	七七
四日市市	四	六	八四	—	—	—	—	—	—	四	六	八四
宇治山田市	三	五	九六	—	—	—	—	—	—	三	五	九六
合計	七四	二二一	二五、六五	九	三六	三、九五	一三	二六	二、四〇	九五	二八三	三二、〇〇

備考　本表金額ハ總テ救護日額ヲ掲記シタルモノナリ

軍事救護法ニ依ル救護者調（醫療救護）　昭和二年三月十五日現在

郡名	戸數	人員	金額
三重	二戸	二人	二円六五
鈴鹿	一	一	、三八
河藝	一	一	未ダ支給セス
計	四	四	三、〇三

備考　本表金額ハ現救護者ニ對スル本年度救護額ノ平均日額ヲ掲記ス

軍人援護資金救護者調　昭和二年三月十五日現在

郡市名	戸數	人員	金額
桑名	—戸	—人	円—
員辨	一	一	四、五〇
三重	七	二四	四三、五〇
鈴鹿	一	五	五、〇〇
河藝	五	一〇	二〇、三〇
安濃	一	五	四、〇〇
一志	—	—	—

飯南	四	一八	二四、〇〇
多氣	—	一四	八、四〇
度會	—	—	—
阿山	六	一三	五二、五〇
名賀	一	二	—
志摩	三	九	一三、〇〇
北牟婁	二	六	四、五〇
南牟婁	—	—	—
津市	一	一	三、〇〇
四日市市	三	三	五、〇〇
宇治山田市	一	三	七、〇〇
合計	三四	一〇〇	一六一、八〇

備考　本救護金額ハ月額ヲ以テ掲記ス

七、人事相談

本件ニ關シテハ大正九年四月以降四日市、宇治山田兩警察署ニ於テ規程ヲ設ケ一般人事ノ相談ニ應シ其ノ後津、松阪、鳥羽、上野、桑名其ノ他主ナル各警察署ニ於テ同樣事務ヲ取扱ヒツツアリ尙縣下各職業紹介所ニ於テモ同樣相談ニ應シ就職希望者ニハ夫々適當懇切ニ斡旋シツツアリ今大正九年以後各警察署ニテ取扱ヘル件數左ノ如シ

署名	九年	十年	十一年	十二年	十三年	十四年	十五年	合計
四日市	五八	九一	一五三	七一	一一九	四三七	四一二	一、三四一件
龜山	—	—	—	—	—	四六	六八	一一四
津	—	八	六一	七六	一四六	二八四	三五一	九二六
久居	—	—	七	一四	—	五	五	二九
松阪	—	—	—	—	—	一三九	一七五	三一四
宇治山田	三一三	五〇四	七九七	一、〇七四	二、〇一八	一、七五二	一、九一〇	八、三六七
鳥羽	—	—	—	—	一一五	一五七	四七	三一七
尾鷲	—	二〇	一八	五〇	三一	二五	三五	一七九
長島	—	—	—	—	—	一二	二六	三八
上野	四〇	二七	四三	一一〇	一一四	六九	八四	四八七
柘植	—	—	—	—	—	二	三	五
計	四一〇	六五〇	一、〇七九	一、三九五	二、五四一	二、九二八	三、一一四	一二、一一七

八、職業紹介

勞務ノ需給調節並防貧、救貧的社會政策トシテ本施設ノ緊要ナルヲ認メ大正十年四月一日ヨリ縣下各市町村ニ右ノ事業ヲ開始セシメタルカ偶々同年四月八日職業紹介法公布セラレタルヲ以テ職業紹介法施行細則ヲ制定シ津市、四日市市、宇治山田市職業紹介所ニ認可ヲ宇治山田市明照淨濟會ニ許可ヲ與ヘ又一面本施設ノ普及奬勵ニ努メタル結果其ノ後桑名町、松阪町、上野町ニモ之カ設置ヲ見ルニ至リ何レモ相當成績ヲ擧ケツヽアリ

由來職業紹介所ハ各府縣知事ノ監督ニ屬セシカ大正十二年三月三十一日ヲ以テ職業紹介法同施行令、同施行規則ニ改正ヲ加ヘラレ中央及地方職業紹介事務局設置セラレ本縣ハ大阪地方職業紹介事務局ノ管轄トナリ同事務局ノ監督ヲ受ケツヽアリシカ大正十四年四月十一日職業紹介事務局官制改正ニ伴ヒ新ニ名古屋地方職業紹介事務局設置セラレシヲ以テ同事務局ノ管轄ニ移管セラレタリ然レトモ本施設ハ縣當局トシテ等閑ニ附スヘキニアラサル重大事業ナルヲ以テ間接ニ之カ奬勵普及ヲ圖ルト共ニ既設紹介所ニ一段ノ改良進歩ヲ促シツヽアルノ狀況ナリ又少年職業紹介ノ必要ヲ認メテ職業紹介所設置ノ市町ニ少年職業紹介委員ヲ設置スルコトヽトナレリ

●（イ）桑名町職業紹介所

位置　桑名町役場内

經營　桑名町

職員　所長大河内彌兵衛外事務員一名

開始年月日　大正十三年一月十一日

昭和二年度豫算　一、三九六円

大正十五年中ノ成績

種別	求人數 男	求人數 女	求人數 計	求職數 男	求職數 女	求職數 計	就職數 男	就職數 女	就職數 計
一月	八	三	一一	八	三	一一	二	一	二
二月	四二	四	四六	一六	三	一九	二	二	四
三月	三五	五	四〇	一八	一	一九	四	一	四
四月	一九	一	二〇	二四	一	二四	六	一	六
五月	一一	二	一三	一四	一	一五	三	一	三
六月	六	一	六	一二	一	一三	四	一	四
七月	四	三	七	一〇	一	一一	一	一	二
八月	一〇	五	一五	一〇	一	一一	二	一	二
九月	六	四	一〇	一六	一	一七	一	一	一
十月	六	一	六	一二	一	一二	一	一	一
十一月	一八	一〇	二八	一四	一	一四	三	一	三
十二月	七	三	一〇	一一	一	一一	二	一	二
計	一七二人	四〇	二一二	一六四	一二	一七六	三一	三	三四

●（ロ）四日市市職業紹介所

位置　四日市市役所内

經營　四日市市

職員　所長渡邊章六外事務員二名
開始年月日　大正十一年三月三十一日
昭和二年度豫算　一、〇九七円
大正十五年中ノ成績

種別	求人數 男	求人數 女	求人數 計	求職數 男	求職數 女	求職數 計	就職數 男	就職數 女	就職數 計
一月	二一	五	二六	三七	八	四五	一九	二	二一
二月	五一	三	五四	二三	一	二三	一一	—	一一
三月	五一	二四	七五	五四	四六	一〇〇	二三	二六	四九
四月	一五	三	一八	五九	七	六六	二七	二	二九
五月	一三	四	一六	三八	八	四六	一三	六	一九
六月	一七	三	二〇	三三	六	三九	一八	—	一八
七月	九	六	一五	三八	七	四五	一八	四	二二
八月	一五	三	一八	四一	六	四七	二四	一	二五
九月	一三	三	一五	三三	六	三九	九	三	一二
十月	一五	三	一八	二三	二	二四	一〇	一	一一
十一月	一三	四	一七	三四	四	三八	一三	一	一四
十二月	一〇	四	一四	二九	二	三一	一一	一	一二
計 人	二四一	六五	三〇六	四四〇	〇三	五四三	一九六	四七	二四三

●（八）津市職業紹介所

位置　津市役所内
經營　津市
職員　所長神鳥德男外事務員二名

開始年月日　大正十一年十月一日
昭和二年度豫算　一、五九七円
大正十五年中ノ成績

種別	求人數 男	求人數 女	求人數 計	求職數 男	求職數 女	求職數 計	就職數 男	就職數 女	就職數 計
一月	一三	一〇	二二	一七	七	二四	六	四	一〇
二月	二三	三二	五五	一九	八	二七	六	三	九
三月	四六	一七	六三	六八	四〇	一〇八	二六	一四	四〇
四月	一〇	六	一六	三一	六	三七	一一	五	一六
五月	一三	一五	二七	二九	九	三八	一三	六	一九
六月	二九	一四	四三	二六	四	三〇	一三	六	一九
七月	九	一一	二〇	二一	二	二三	一一	一	一二
八月	一五	一〇	二五	二一	一	二三	九	二	一一
九月	八	四	一二	三四	七	四一	八	三	一一
十月	五〇	二一	七一	三九	五	四四	一二	一	一三
十一月	二四	六	三〇	二九	一一	四〇	一四	六	二〇
十二月	九	三	一二	一一	一	一二	五	—	五
計 人	二四七	一四九	三九六	三四六	一〇一	四四七	一三四	四八	一八二

●（二）宇治山田市職業紹介所

位置　宇治山田市役所内
經營　宇治山田市
職員　所長欠員事務員一名
開始年月日　大正十一年三月三十一日

昭和二年度豫算　一、四四八円
大正十五年中ノ成績

種別	求人数			求職数			就職数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
一月	三七	六	三三	三八	二	二九	二二		
二月	二五	一六	二一	一七	三	二〇	一五		
三月	四九	五	五四	三三	一	三四	二九		
四月	四〇	二	四二	一四	七	二一	一六		
五月	三八	一	三九	一四	一	一五	一三		
六月	三四	一	三五	一六	二	一八	一四		
七月	三〇	一	三一	二三	一	二四	二〇		
八月	一九	一	二〇	一三	一	一四	一二		
九月	二三	一	二四	一六	一	一七	一四		
十月	一六	一	一七	一六	一	一七	一四		
十一月	一四	一	一五	一六	一	一七	一四		
十二月	一六	一	一七	一八	一	一九	一六		
計	三四七	一八	三六五	二四八	一七	二六五	一八〇		

●（ホ）松阪町職業紹介所

位置　松阪町役場内
經營　松阪町
職員　所長田川忠夫外事務員二名
開始年月日　大正十三年六月二十一日
昭和二年度豫算　七六六円
大正十五年中ノ成績

種別	求人数			求職数			就職数		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
一月	三三	六	三九	三四	三	三七	六		六
二月	二六	三	二九	三三	三	三六	二		二
三月	四七	五	五二	二六	三	二九	一五		一五
四月	一三	一	一四	一五	一	一六	一二		一二
五月	一六	一	一七	一三	一	一四	一〇		一〇
六月	一三	一	一四	一三	一	一四	一〇		一〇
七月	一〇	一	一一	一三	一	一四	一〇		一〇
八月	一〇	一	一一	一三	一	一四	一〇		一〇
九月	一〇	一	一一	一三	一	一四	一〇		一〇
十月	一〇	一	一一	一三	一	一四	一〇		一〇
十一月	一〇	一	一一	一三	一	一四	一〇		一〇
十二月	一〇	一	一一	一三	一	一四	一〇		一〇
計	一四七	一九	一六六	一三四	一五	一四九	一〇二		一〇二

●（ヘ）上野町職業紹介所

位置　上野町役場内
經營　上野町
職員　所長欠員事務員一名
開始年月日　大正十三年四月一日
昭和二年度豫算　六二五円
大正十五年中ノ成績

種別	求人數 男	求人數 女	求人數 計	求職數 男	求職數 女	求職數 計	就職數 男	就職數 女	就職數 計
一月	三		三	三		四	一		一
二月	二	二	二三	一		一			
三月	四八	五四	一〇二	三		三	一		一
四月	二		二						
五月	五	一	六	三		三			
六月		一	一	二		二			
七月	二		二	六		六	一		一
八月	七	四	二	三	一	四	一		一
九月	四		四	三		三	一		一
十月	二		二	三	一	四	一		一
十一月	五	二	七	五	三	八	一	一	二
十二月	五	一	六	七	一	八	一	一	二
計 人	一一三	六五	一七八	三九	七	四六	七	二	九

●（ト）明照淨濟會職業紹介所

位置　宇治山田市吹上町九〇番地

經營　明照淨濟會

職員　所長清水法隆外事務員二名

開始年月日　大正十一年三月三十一日

昭和二年度豫算　二七〇円

大正十五年中ノ成績

種別	求人數 男	求人數 女	求人數 計	求職數 男	求職數 女	求職數 計	就職數 男	就職數 女	就職數 計
一月	二一	七	二八	四四	四	四八	一六	一	一七
二月	二五	七	三二	三一	八	三九	一三	二	一五
三月	二四	一	二五	四〇		四〇	一九		一九
四月	一八	一	一九	三三	四	三七	一〇	一	一一
五月	一七	三	二〇	三四	二	三六	一四	一	一五
六月	一九	五	二四	三四	四	三八	一四	三	一七
七月	一九	一	二〇	三四		三四	一四		一四
八月	二三	一	二四	三四		三四	一六		一六
九月	一六	三	一九	三二	一	三三	一四	一	一五
十月	一六	五	二一	二一	四	二五	一四	二	一六
十一月	二〇	一〇	三〇	三八	一	三九	一八	一	一九
十二月	一六	一	一七	三二	一	三三	一三	一	一四
計 人	二三四	四五	二七九	四〇七	三〇	四三七	一七五	一三	一八八

●（チ）四日市船員職業紹介所

位置　四日市市稻葉町

經營　大日本海員掖濟會三重支部

職員　所長白木佳郎事務員一名

開始年月日　大正十二年二月一日

昭和二年度豫算　二、八三二円

大正十五年中ノ成績

種別	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	計
求人数	六	三	二	三	一	一	三	三	一	一	二	一	人
求職数	七	四	六	五	三	二	七	一	七	一	三	二	八〇
就職数	二	二	二	二	一	六	三	一	一	一	二	一	一六

右ハ船員職業紹介法ニ基キ大日本海員掖済會三重支部四日市海員寄宿所ニ設備ヲ施シ事務ヲ取扱ヒツヽアリ

九、宿泊救護

(イ)明照淨濟會

位置　宇治山田市吹上町九〇番地

事業　職業紹介、宿泊救護、釋放人保護

經營　有志會員

職員　會長清水法隆外理事一名事務員二名

沿革　大正元年八月明治天皇崩御ニ際シ聖德奉酬記念ヲシテ清水法隆、駒田圓應、松本古月、井上又兵衛、森島誠諦等ノ發起ニテ創立シ清水法隆ヲ代表者トシテ當初事務所ヲ宇治山田市欣淨寺ニ置キタリシカ大正二年四月二十五日現在ノ地ニ土地家屋ヲ買收シ失業者救濟ノ目的ヲ以テ宿泊救護並職業紹介事業ヲ開始シ今日ニ及フ

現況　大正十五年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金參百圓ヲ補助スヽ而シテ大正十五年中ニ於テハ男女三百七十三名ヲ宿泊救護シ職業紹介ト共ニ相當ノ成績ヲ擧ケツツアリ尚本會ハ敎化訓育事業トシテ毎月五ノ日ニ定期講演會ヲ開キ又知名ノ講師ヲ聘シテ臨時講演會ヲ開催シ尚毎月一日、十五日ニハ修養會、慰安會ヲ開催シ毎日曜日ニハ明照日曜學校ヲ開キ其ノ他揭示傳道、文書宣傳等ヲ行ヒ專ラ本會趣旨ノ普及ニ努力シツツアリ宿泊救護成績及昭和二年度豫算左ノ如シ

大正十五年中宿泊救護成績

三六一名	女	一二名	計 三七三名
創立以來宿泊救護成績			
二、三二〇名	女	一四二名	計 二、四六二名

大正十五年中職業紹介成績

求人	男	一八三名	女 一〇五名
求職	男	二一八名	女 五四名
就職	男	八七名	女 四三名

計	二八八名	
計	二七二名	
計	一三〇名	

大正十五年中釋放人保護

一時保護　三名
宿泊保護　一三名
家庭懇問保護　三名

昭和二年度歳入歳出豫算

歳入

第一款	助成金	七八〇円
第二款	基金利子	二一〇
第三款	會員醵金	一五〇
第四款	事業收入	一、三八七
第五款	臨時寄附	一〇〇
第六款	慈善行施入	二五〇
第七款	雜收入	五〇
第八款	經營者支出金	三、二四八
合計		四三二円

歳出

第一款	事務所費	二七〇
第二款	職業紹介所費	一、七〇七
第三款	宿泊所費	二四〇
第四款	保護費	六〇
第五款	教化訓育費	二九
第六款	火災保險費	二〇〇
第七款	修繕費	一〇〇
第八款	積立金	二〇〇
第九款	借入金償還	一〇
第十款	豫備費	三、二四八
合計		

十、住宅供給

●(イ)　住宅組合ニ關スル事項

住宅組合法實施以來設立シタル組合數二十ニシテ其ノ建設戸數二百八十二戸ナリ之ニ對スル貸付金ハ四十五萬圓ニシテ大正十年度拾萬五千圓同十一年度九萬圓同十二年度六萬五千圓同十三年度五萬圓同十四年度六萬圓同十五年度八萬圓ヲ縣債ニ依リ大藏省預金部ヨリ融通ヲ受ケ擔保ヲ徴シ前記二十組合ニ貸付セリ其ノ內譯別表(第一號表)ノ通リ

右ニ關聯シタル事業トシテ大正八年度ニ於テ金貳萬六千五百圓同十二年度ニ於テ貳萬參千圓同十三年度ニ於テ八萬圓ヲ縣債ニ依リ大藏省預金部ヨリ融通ヲ受ケ之ヲ別表(第二號表)

經營主體ニ貸付シ事業ヲ遂行セシメツツアリ右縣債ハ半年賦償還ニシテ二十年ニ完濟スルモノナリ從テ貸付先ヨリノ償還亦之ニ依ラシム住宅組合ノ現況並ニ本縣ニ於テ公布ノ關係法規左ノ如シ

（第一號表）　住宅組合ニ關スル調　（昭和元年十二月末現在）

組合名	設立許可年月日	事務所所在地	存立期間	資金貸付額	組合員數	建設濟戸數	未建設戸數
			年	円	戸	戸	
富田町住宅組合	大正十一年三月一日	三重郡富田町	二〇	一五、〇〇〇	九	九	
赤堀住宅組合	三月二十一日	同郡常磐村大字赤堀	二〇	一〇、〇〇〇	三一	三一	
市場住宅組合	同	同	二〇	一〇、〇〇〇	三一	三一	
平谷住宅組合	三月三十一日	多氣郡佐奈村大字平谷	二〇	五、〇〇〇	七	七	
長島住宅組合	同	北牟婁郡長島町	二〇	一〇、〇〇〇	一〇	一〇	
尾鷲住宅組合	同	北牟婁郡尾鷲町	一〇	一〇、〇〇〇	七	七	
津住宅組合	同	津市丸ノ内	二〇	一〇、〇〇〇	一〇	一〇	
四日市住宅組合	同	四日市市濱一色	二〇	五五、〇〇〇	二六	二六	
富田町第二住宅組合	十二年三月十日	三重郡富田町	二〇	一五、〇〇〇	一三	一三	
羽津村住宅組合	同 十一年三月三十一日	三重郡羽津村	二〇	一〇、〇〇〇	一〇	一〇	
西岸江住宅組合	同 十二年三月十二日	飯南郡松阪町大字西岸江	二〇	一〇、〇〇〇	一六	一四	二
引本住宅組合	同 四月十七日	北牟婁郡引本町	二〇	三〇、〇〇〇	一九	一九	
末永住宅組合	同 十三年三月十一日	四日市市濱一色	二〇	一〇、〇〇〇	一〇	一〇	
松江村住宅組合	同 三月八日	飯南郡松江村大字西ノ庄	一五	一三、〇〇〇	一三	一三	
伊勢新聞社住宅組合	同	津市丸ノ内	二〇	一二、三〇〇	七	七	
下部田住宅組合	同 三月十四日	津市下部田	二〇	二二、三〇〇	一三	一三	
津均一住宅組合	同 十四年八月十五日	津市上濱町	二〇	一八、〇〇〇	九	九	
四日市第二住宅組合	同	四日市市濱一色	二〇	二九、〇〇〇	二二	二二	
上野町住宅組合	同	阿山郡上野町	一八	三、〇〇〇	三〇	八	二二
小田村住宅組合	同 十五年四月十四日	阿山郡小田村	一六	一〇、〇〇〇	八	八	
洞津住宅組合	同 四月十四日	津市山上下部田	一〇	一三、〇〇〇	一三	六	七

（第二號表）　社會事業施設ニ對スル資金貸付額調（小住宅其ノ他）

經營主體	貸付金額	建設戸數	備考
桑名郡深谷村第四區住宅改良組合	四、五〇〇円	九戸	地方改善事業トシテノ施設ナリ

安濃郡雲林院村大正住宅改良組合	四、〇〇〇円	一三戸	同上	
北牟婁郡 錦產業組合	一八、〇〇〇	三〇	錦產業組合利用部事業トシテノ施設ナリ	
河藝郡 河曲產業組合	二〇、〇〇〇	二〇	河曲產業組合利用部事業トシテノ施設ナリ	
阿山郡城南村	三、〇〇〇	一	地方改善事業（共同浴場）費資金轉貸ノ爲ナリ	
飯南郡松阪町	八〇、〇〇〇	一〇〇	地區整理ニ伴フ事業トシテ小住宅ヲ建設シ立退者ノ住宅ニ充ツルモノナリ	
計	一二九、五〇〇	一七三		

住宅組合法施行細則

（大正十年十二月縣令第六十六號 大正十四年四月縣令第二十九號改正 大正十五年七月縣令第百二十三號改正）

第一條　住宅組合ノ設立許可申請書ニハ定款及事業方法書ノ外組合員ニ關スル調書ヲ添付スヘシ合併ニ依リ設立スル場合亦同シ

第二條　住宅組合ノ定款中一人ノ出資口數三十口以上ヲ取得スヘキコトヲ規定シタル場合ハ特ニ其ノ理由書ヲ添付スヘシ

第三條　住宅組合設立ノ許可アリタルトキハ組合長ハ遲滯ナク各口ニ付第一回ノ拂込ヲ爲スヘキ旨ヲ各組合員ニ通知スルコトヲ要ス

設立ノ許可アリタル日ヨリ一月ヲ超ユルモ仍前項ノ拂込ヲ爲ササルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ調査シ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第四條　前條ノ拂込ヲ爲シタルトキハ組合ハ遲滯ナク財產目錄及貸借對照表ヲ調製スヘシ

第五條　組合總會召集ノ通知ヲ發シタルトキハ遲滯ナク其ノ會議ノ目的ノ日時及場所ヲ知事ニ報告スヘシ但シ組合員ヨリ總會召集ノ請求アリタルトキハ其ノ理由書ヲ添付スヘシ

前項ノ會議ヲ終リタルトキハ二週間以內ニ決議錄ノ謄本ヲ添ヘ知事ニ報告スヘシ

第六條　住宅組合ニ於テ借入金ヲ爲シタルトキハ左記事項ヲ具シ速ニ知事ニ報告スヘシ

一、借入金額
二、借入先
三、利率
四、借入未濟金額
五、借入年月日

第七條　住宅組合ニ於テ借入金ヲ償還シタルトキハ其ノ都度遲滯ナク左記事項ヲ具シ之ヲ知事ニ報告スヘシ

一、償還元利金額
二、償還先

三、償還年月日
四、借入年月日
五、償還未濟金額

第八條　住宅組合ハ左記事項ニ付ヲハ遲滯ナク之ヲ知事ニ報告スヘシ

一、訴訟又ハ和解
二、會議規則其ノ他重要ナル規程ノ設定變更廢止
三、保險金額
四、保險期間
五、保險料及其ノ支拂方法
六、保險契約先

第九條　住宅組合法施行規則第十四條ノ規定ニ依リ住宅ノ上ニ抵當權ヲ設定シ又ハ相當ノ擔保ヲ提供セシメタルトキハ遲滯ナク之ヲ知事ニ報告スヘシ

第十條　住宅組合法第十條ノ規定ニ依リ住宅ヲ火災保險ニ附シタルトキハ遲滯ナク左記事項ヲ具シ之ヲ知事ニ報告スヘシ

一、保險ニ附シタル建物ノ構造所在
二、保險契約締結ノ年月日

第十一條　住宅組合ニハ左ノ簿冊ヲ備付クヘシ

一、組合員名簿
二、出資拂込表
三、出資總額表
四、財產臺帳
五、借地臺帳
六、處務日誌
七、出納日記帳
八、收支計算簿
九、借入金臺帳
十、出資金其ノ他拂込金徵收簿

第十二條　理事又ハ清算人ハ住宅組合法第十六條第一項ノ規定ニ依リ準用シタル民法第七十條及第八十一條ノ規定ニ依ル破產ノ宣告ヲ受ケ若ハ破產宣告ノ請求ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ之ヲ知事ニ報告スヘシ

第十三條　住宅組合又ハ利害關係人ハ住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第七十三條ノ二又ハ第七十三條ノ三ノ規定ニ依リ清算人ノ選任又ハ解任ノ必要アルトキハ其ノ旨知事ニ具申スヘシ

第十四條　住宅組合法、住宅組合法施行規則及本令ニ依リ知事ニ提出スル書類ハ各二通定

款及事業方法書ハ各三通ヲ調製シ主タル事務所々在地ノ市町村長ヲ經由スヘシ

第十五條　住宅組合設立許可申請書組合員ニ關スル調書事業方法其ノ他ノ樣式ハ別ニ定ムル所ニ準據スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

住宅組合法施行細則取扱手續　（大正十年十二月縣訓令甲第二十六號、大正十五年七月甲第百〇七號改正）

第一條　住宅組合ノ設立許可申請書ヲ受理シタルトキハ市町村長ハ左記事項ヲ調査シ具申スヘシ

一、組合員タルヘキ者ノ本籍、住所、職業、性行、資產、收入ノ概要

二、住宅用地ノ所在

三、區域內ニ於ケル住宅需給ノ狀況

四、組合ノ設立ヲ必要トスル事由

組合ノ區域二市町村以上ニ亘ルトキハ各市町村長ニ於テ前項各號ニ就キ調查具申スヘシ

第二條　住宅組合法施行規則第十八條ニ依ル事業計畫書ニハ左ニ揭クル該當事項ヲ記載セシメ其ノ當否ニ關シ意見ヲ具申スヘシ

一、事業費支辨方法（出資金、借入金、寄附金等ニ區別）

二、住宅用地（所在地目、坪數、所有者氏名）

三、用地借入契約方法（地上權、地役權ノ設定等ノ契約別）

四、建築戶數（構造、坪數、間數等）

五、工事着手並ニ竣工豫定年月日

第三條　住宅組合ヨリ左ニ揭クル事項ノ認可申請書ヲ受理シタルトキハ市町村長ハ意見ヲ具申スヘシ

一、定款ノ變更

二、組合持分ノ讓渡

三、合併

四、解散

前項第二號ニ就テハ讓受人ニ對スル第一條第一號及第二號ノ事項ニ付意見ヲ具申スヘシ

第四條　住宅組合法第十六條第二項ノ規定ニ依リ準用シタル產業組合法第二十四條ノ規定ニ依ル申請アリタルトキハ市町村長ハ意見ヲ具申スヘシ

第五條　支廳長又ハ市町村長ハ組合事業經營困難ニ陷リ若ハ經營上法令又ハ定款並ニ事業方法書ニ違背シ又ハ住宅組合ノ主旨ニ反スルモノアリト認メタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ知事ニ報告スヘシ

第六條　支廳長又ハ市町村長ハ清算中ニ屬スル組合ノ清算上重大ナル支障アリト認メタル

トキ又ハ清算人ヲ改任スルニ非ザレハ遅ニ清算ヲ結了シ難キ事情アリト認メタルトキハ遅滞ナク意見ヲ具シ其ノ事由ヲ知事ニ報告スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

、住宅組合施行細則第十五條ノ規定ニ依ル關係書類並帳簿樣式（大正十四年四月縣告示第百七十五號改正）

住宅組合關係書類並帳簿樣式

第一號樣式

住宅組合設立許可申請書

今般住宅組合法ニ依リ何々責任何々住宅組合設立致度候ニ付御許可相成度別紙定款事業方法書組合員ニ關スル調書組合員別住宅表收支豫算書借入金償還年次及財源表相添ヘ此段申請候也

年　月　日　　住　所
設立者又ハ總代　何　某　㊞

知事　宛

第二號樣式

何々責任何々住宅組合事業方法書（小文字ハ記載例ヲ示ス）

一、事業區域　津市一圓

二、存立期間　昭和　年　月　日（又ハ　年間）

三、出　資

イ、出資金總額　參萬圓

ロ、出資口數　三百口

ハ、出資一口ノ金額　百圓

ニ、出資拂込方法　第一回拂込ハ出資一口ニ付金五圓第二回以後住宅供給前ハ第一回拂込金ノ十分ノ一住宅供給後ハ出資金額及之ニ對スル利子相當額ノ合算額ヨリ住宅供給前迄ニ拂込ミタル金額ヲ控除シタル殘額ヲ組合存立期間滿了迄ノ月數ニ依リ均等ニ分割シタル金額

四、事　業

イ、事業費總額　參萬圓

（一）住宅建設費　參萬圓

（二）用　地　費　〇

ロ、事業費處辨方法

金　貳萬八千圓　借入金

借入先　三重縣住宅建設資金借入

利　率　年四分八厘

借入ノ時　昭和二年度

据置及償還期間　昭和二年度ヨリ十五箇年間ニ半年賦償還ス

償還方法　組合員ノ出資金及利子相當額ノ拂込金ヲ以テ毎年八月二十五日、二月二十五日ノ二期ニ於テ各元利金千參百貳拾圓宛ヲ償還ス

金　貳千圓　出資金

第一回拂込出資金千五百圓、第二回以後第五回ニ至ル拂込出資金六百圓合計貳千百圓ノ中貳千圓ヲ充當ス

ハ、事業ノ施行

(一)住宅建設

建築戸數　木造瓦葺平家五戸同二階家五戸

同上建坪數　延二百坪

事業ノ遂行　昭和二年四月工事ニ着手シ同九月全部竣工

(備考)　住宅ヲ購入スルモノアルトキハ住宅建築ノ例ニ準シ別項トシテ之ヲ記載スヘシ

(二)用地ノ借入

住宅用地ハ組合員ノ希望ヲ斟酌シ事業區域内適當ノ場所ヲ借入レ地代其ノ他一切ノ費用ハ總テ當該組合員ノ負擔トス

(三)住宅所有權ノ移轉

住宅ノ所有權ハ出資金額ノ二分ノ一ノ拂込テ了シタルトキ組合員ニ讓渡ス

(四)用地供給ノ方法

組合ノ有スル借地權、地上權又ハ使用權ハ住宅ノ所有權讓渡ト同時ニ組合員ニ無償讓渡ス

五、火災其ノ他ノ事由ニ依リ住宅滅失ノ場合ニ於ケル處理方法

イ、住宅ノ所有權カ組合ニ屬スル場合

火災ノ爲住宅カ滅失シタル場合ニ在リテハ組合ハ受領保險金ノ範圍内ニ於テ再ヒ建設供給シ火災以外ノ原因ニヨル場合ハ總會ノ決議ニ依リ未拂込出資金額ノ範圍内ニ於テ滅失セル住宅ノ設計ヲ斟酌シテ建設供給ス此ノ場合ニ於ケル組合ノ損失ハ持分ニ應シ各組合員ノ負擔トス

ロ、住宅ノ所有權カ組合員ニ屬スル場合

火災ノ爲住宅カ滅失シタル場合ニアリテハ組合ハ組合員ノ提供スル保險金額ノ範圍内ニ於テ再ヒ建設供給シ火災以外ノ原因ニヨル場合ハ組合員ノ希望アル時ニ限リ當該組合員ノ計算ニ於テ建設供給ス

六、出資口數增減ノ場合ニ於ケル拂込ノ方法

イ、出資口數增加ノ場合

增加組合員ハ增加口數ニ付設立當初ニ遡リ增加ノ當時迄ニ拂込ムヘキ金額ヲ一時ニ增加直後ノ拂込期迄ニ拂込テナシ以後ハ定款ノ定ムル處ニ從ヒ毎月拂込ムモノトス

ロ、出資口數減少ノ場合

組合ハ減少セル口數ニ對スル拂込濟出資額ヲ減少直後ノ出資拂込期迄ニ當該組合員ニ返還スルモノトス但シ組合ノ都合ニ依リ當該組合員カ有スル他ノ出資口數ニ對スル拂込金ニ振替充當スルコトアルヘシ

第三號樣式

組合員ニ關スル調書

組合員 氏名	住所	職業	月收	家族員數	資産 動産	資産 不動産	現在住宅 坪數	現在住宅 家賃	出資金額	住宅供給後毎月拂込金額 出資及利子相當額	住宅供給後毎月拂込金額 地代保險料及事務費其ノ他	住宅供給後毎月拂込金額 計	建設家屋坪數
			円		円	円	坪	円		円	円	円	
					円	円	坪	円					
					円	円	坪	円					
合計					円	円	坪	円					

備考

一、住所ハ地番ヲ省略スルコトヲ得

二、職業ハ可成具體的ニ記入スルコト

三、資産ハ大體ノ見積價格ニテ可ナリ

四、住宅供給後ノ拂込金額ハ實際計算ニ基ク豫定金額ヲ掲記スルコト

五、地代保險料其ノ他ノ拂込欄ノ記載事項ニ關シテハ大體其ノ要領ヲ備考ニ説明スルコト

第四號樣式

組合員別住宅表

組合員氏名	出資金額	住宅 種類及構造	住宅 坪數	住宅 家屋建築費	住宅 同上坪當價格	住宅 附屬設備費	同上用地 坪數	同上用地 購入 價格	同上用地 借入 月賦金額	同上用地 借入 期間	同上用地 借入 地代月額
	円		坪	円		円	坪	円	円		円
合計											

備考

一、住宅ノ種類及構造欄ニハ和洋式ノ別並平家二階家ノ區別ヲ記入スルコト

二、附屬設備ニ付テハ備考ニ大要ヲ説明シ特殊ナルモノアル〓ハ明細ニ記述スルコト

三、用地ノ月賦金額ニハ組合員カ用地取得ノ爲毎月拂込ムヘキ金額ヲ記入スルコト

第五條樣式

借入金償還年次及財源表

償還年度及期日	償還金 元金償還額	償還金 利子額	償還金 計	償還金 未償還元金	同上財源 前年度繰越金	同上財源 出資拂込金	同上財源 利子拂込金	同上財源 預金利子	同上財源 何々	同上財源 計	差引
	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円	円

合計	

備考
一、地代保險料ノ如ク償還財源トナラサルモノハ記載ヲ要セス
一、借入先ヲ異ニスル毎ニ調製ヲ要ス

第六號樣式

昭和　年度何々責任何々住宅組合收支豫算書

收入

科目	本年度豫算高	前年度豫算高	比較 增	比較 減	附記
一、出資金					
一、出資拂込金					
二、拂込金					
一、組合經費					
二、火災保險料					
三、住宅用地貸付料					
三、雜收入					
一、預金利子					
二、不用品賣却代金					
四、借入金					
一、借入金					
五、繰越金					
一、前年度繰越金					
合計					

支出

科目	本年度豫算高	前年度豫算高	比較増減	附記
一、事務費				
一、諸給				
二、需用費				
二、會議費				
一、總會費				
二、雜費				
三、事業費				
一、建築費				
二、用地諸費				
三、雜費				
四、管理費				
一、火災保險料				
二、用地賃借料				
五、借入金償還金				
一、元金償還金				
二、利子支拂金				
六、豫備費				
一、豫備費				
合計				

備考

一、收入支出ヲ經常臨時ノ二部ニ分ツノ必要アルトキハ其ノ性質ニ從ヒ之カ區分ヲ爲スヘシ而シテ經常臨時ノ二部ニハ各計ヲ設ケ更ニ收入支出ノ合計ヲ掲記スヘシ

二、附記欄ニハ豫算ノ計算ノ基ク所ヲ明カナラシムヘシ

三、本例ノ外組合ノ實狀ニ應シ款項ヲ增減スルモノトス

第七條樣式

決算書

收支決算書ハ豫算書樣式ニ準シ調製シ「前年度豫算高」ノ欄ヲ「本年度決算高」ニ改メ附記欄ニハ豫算ニ對スル增減ノ事由並流用ノ顚末ヲ簡明ニ記入スヘシ

第八號樣式

組合員名簿

帳簿表紙

何々責任何々組合

組合員名簿

表紙ノ裏面

表紙ヲ除キ何枚

理事

監事

加入年月日	出資一口ノ金額	職業	住所	氏名生年月日
	円			

年月日	摘要	取得		讓渡減少		現在出資	
		番號	口數	番號	口數	口數	總額

年月日脫退

出資拂込

拂込年月日	回數	拂込金額	累計
		円	
			円

第九號樣式

出資拂込表

年月日	事由	拂込	拂戻	計
			円	
		円		
			円	
			円	

拂込年月日	回數	拂込金額	累計
		円	
			円
		円	
			円
		円	

備考

每年度末計及各年度ノ累計ヲナスコト

第十號樣式

出資總額表

年月日	摘要	增 口數	金額	減 口數	金額	計 口數	金額
			円		円		円

第十一號樣式

財產臺帳

建物之部

所在地	三重縣 郡 市 町 村 大字 番地				
建物	建築又ハ購入年月日	同上費額	構造	坪數	室數	附屬設備
		円				
管理及建物價格	年月日 金額	火災保險 保險料年額	抵當權設定ノ有無			
	円	円				

處分方法	組合員ニ供給又ハ讓渡 年月日 金額	拂込方法	氏名
	円		

備考 一組合員毎ニ口座ヲ設クルコト

土地ノ部

所在地	地目	坪數	取得 年月日	原因	價格	造成 年月日	方法	價格
郡 市 町 村 大字 番					円			円

管理及處分方法	貸付 年月日	貸付料年額	其間金額	讓渡 拂込方法	抵當權設定ノ有無	氏名

備考　一組合員毎ニ口座ヲ設クルコト
造成方法欄ニハ埋立、開墾等ノ種類ヲ記載スルコト

備品ノ部

年月日	品目	受入 數量	受入 金額	拂出 數量	拂出 金額	現在 數量	現在 金額	摘要
			円		円		円	

備考　摘要欄ニハ上欄ノ數量中異動ヲ生シタルトキ其ノ要領ヲ記載スルコト

第十二條樣式

借地臺帳

所在地	地目	坪數	借入年月日	期間	借地料	所有者住所氏名

借入　郡市　町村　大字　番　　円　郡市　町村　大字

管理方法	貸付年月日	同上期間	貸地料年額	拂込方法	貸付組合員氏名
			円		

備考　一組合員毎ニ口座ヲ設クルコト

第十三號樣式

處務日記

年月日	摘要		

備考　重要ト認ムル事項ヲ記載スルコト

第十四號様式

出納日記帳

年月日	科目口座及憑號	摘要	受入高	拂出高	殘高
			円	円	円

第十五號様式

收支計算簿

年月日	摘要	豫算高	收入(支出)高	殘高

款何々
項何々

	円	円

備考

一本簿ハ豫算ノ各款、項及總括別ニ口座ヲ設ケテ記載スルコト但シ事宜ニ依リテハ款ノ口座ヲ省略スルモ妨ナシ

一決算ヲ爲ス場合ハ各口座記載末尾ニ合計額ヲ記載スルコト

第十六號様式

借入金臺帳

債權者住所氏名	組合設立許可年月日及番號	借入年月日	借入金額	償還期日

事由

利率													
償還年次	償還年月日				元金償還額	利子支拂額	計	元金殘額					
					円	円	円	円					
報告年月日	支拂年月日	元金償還額	利子支拂額	元金殘高									
		円	円	円									

備考　借入先ヲ異ニスル毎ニ調製スルヲ要ス

第十七號樣式

昭和　年度出資金其ノ他拂込金徵收簿　氏　名

種別	出資拂込金	火災保險料	用地貸付料	組合經費	何々	何々		過怠金	延滯日數	月日
四月分										月日
五月分										月日
六月分										月日
七月分										月日
八月分										月日
九月分										月日
十月分										月日
十一月分										月日
十二月分										月日
一月分										月日
二月分										月日
三月分										月日
計										

受領	組合長
取扱者	

備考　一組合員毎ニ口座ヲ設クルコトヲ得

種別欄ニハ毎月分ノ徴收月日ヲ記入シ取扱者捺印スルモノトス

第十八號樣式

財産目錄

資産				負債			
種目	事項	金額		種目	事項	金額	
拂込未濟出資金	口數又ハ何口等		円	土地	地目及各坪數		
土地	地目及各坪數			建物	棟數及坪數等		
建物	棟數及坪數等			什器	品目點數		
什器	品目點數			預金	件數		
預金	件數			借入金	何々		
				出資金			円

第十九號樣式

貸借對照表

何々			計
計			

貸方			借方		
種目	金額		種目	金額	
拂込未濟出資金		円	出資金		円
土地			借入金		
建物			何々		
什器			何々		
預金					

何	々			
合			合	
計			計	

住宅建設資金貸付規程

（大正十四年八月 改 大正十五年七月 縣告示第三七九號 正 縣告示第三六三號）

第一條　住宅建設ニ要スル資金ハ毎年度政府ヨリ融通ノ範圍内ニ於テ本規程ノ定ムル所ニ依リ市町村、住宅組合又ハ産業組合ニ貸付ス

第二條　貸付金ハ住宅建設ノ資ニ充ツル外之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三條　貸付金ノ利率ハ政府ノ融通資金ノ利率ニ依ル

貸付ノ際ニ於ケル一期ニ充タサル日數アリタル場合ハ拂込當日マテノ日割ヲ以テ算定ス

日割ヲ以テ算定ス

償還ノ際ニ於テ一期ニ充タサル日數アリタル場合ハ拂込當日マテノ日割ヲ以テ算定ス

第四條　貸付金ノ償還年限ハ二十年以内トス

貸付金ハ前項期限内ニ於テ貸付ノ年度ニ限リ据置クコトヲ得但シ利子ノ償還ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第五條　貸付金ノ償還ハ半年賦トシ元金及利子ヲ併セ毎年度八月末日及二月末日ノ兩度ニ

毎期同一ノ金額ヲ償還スルモノトス但シ繰上償還ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　前條ノ償還期限マテニ償還ヲ爲ササルモノアルトキハ償還元金壹百圓ニ付一日金參錢ノ割合ヲ以テ延滯利子ヲ徵收ス

第七條　組合ハ擔保ヲ提供シタル後ニ非サレハ貸付金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ス

前項擔保物件ノ消滅若ハ價格減少其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ更ニ相當擔保ノ提供ヲ命スルコトアルヘシ

第八條　資金ノ貸付ヲ受ケムトスルモノハ第一號樣式ニ依ル住宅建設資金借入申込書ヲ知事ニ提出スヘシ

前項借入申込書ニハ市町村ニ在リテハ其ノ起債決議書謄本、組合ニ在リテハ借入ニ關スル總會決議錄謄本、定款（住宅組合ニ限リ定款ヲ省略スルコトヲ得）財產目錄及貸借對照表ヲ添付スヘシ

第九條　資金貸付ノ決定ヲ受ケタルモノハ第二號樣式ニ依ル借用證書ヲ知事ニ提出シ資金ノ交付ヲ受クヘシ

第十條　資金ノ貸付ヲ受ケタルモノ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ貸付金ノ全部又ハ一部ヲ直ニ返還セシメ之ニ因リテ生シタル損害ヲ賠償セシムルコトアルヘシ

一、資金貸付後三月以内ニ工事ニ着手セス若ハ正當ノ理由ナクシテ工事ヲ進捗セシメサルトキ

二、貸付金ノ償還不確實ナルトキ
三、組合財産ノ狀況ニ依リ其ノ事業ノ繼續困難ナリト認ムルトキ
四、本規程ヲ遵守セス又ハ義務ノ履行ヲ怠リ若ハ履行スルコト能ハサルトキ其ノ他法令、定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルノ虞アルトキ
五、豫定計畫ヲ縮少シ若ハ中止シタルトキ
六、貸付金ノ償還ヲ終ラサル以前ニ於テ組合ヲ解散スル場合又ハ解散ヲ命セラレタルトキ

第十一條　本規程ニ定メタル必要事項履行ノ爲要スル一切ノ費用ハ資金ヲ借入ルルモノノ負擔トス

第十二條　本規程ニ依リ提出スル書類ハ支廳ノ管轄ニ屬スル町村ニ在リテハ支廳長、組合ニ在リテハ主タル事務所所在地ノ市町村長及支廳管內ニ在リテハ支廳長ヲ經由スヘシ

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（第一號樣式）

住宅建設資金借入申込書

一金　　圓也

二　使用ノ目的

三　償還財源

四　償還期限

右金額貸付相成度關係書類相添ヘ此段申込候也

年　月　日

住　所
組合名
組合長理事（市町村長）
氏　名　印

知事　宛

（第二號樣式）（用紙美濃罫紙）

借用證書

一金　　圓也

但シ　年　月　日社會第　號ヲ以テ貸付ノ義御通牒ニ係ル住宅建設資金

右正ニ借用仕候ニ付テハ住宅建設資金貸付規程ヲ遵守スルハ勿論別紙償還年次表ノ通無相違償還可致總會（市町村會）ノ議決ヲ經本書差入候也

年　月　日

住　所

知事宛

組合名

組合長理事（市町村長）

氏名　印

借入金償還年次表

償還年度及期日	元金償還額	利子額	計	未償還元金
	円	円	円	円

●(ロ)公營住宅

(1) 宇治山田市營住宅（代表者宇治山田市長）

一、事業　小住宅供給

一、組織　市營

一、沿革　大正十年度ニ於テ低利資金九萬二千圓ヲ簡易生命保險積立金中ヨリ借受ケ

住宅緩和ノ目的ヲ以テ住宅三十九戸ヲ建設シ一般希望者ニ貸與シツヽアリ其ノ內譯左ノ如シ

戸數	一戸當室數	一戸當疊數	一戸當一ヶ月家賃	敷金
一戸	六	三一、五	三〇、〇〇円	徵セス
一戸	五	二六、五	二五、〇〇	同
一戸	一	一八、五	一七、〇〇	同
二戸	二	一二、五	一一、〇〇	同
二戸	二	一二、五	一〇、〇〇	同
二戸	三	一二、五	九、〇〇	同
一戸	三	一二、五	七、五〇	同
四戸	三	一二、〇	九、〇〇	同
二戸	三	一二、〇	八、〇〇	同
二戸	三	一二、〇	一〇、〇〇	同
九戸	三	一二、〇	九、五〇	同
二八戸				

計

(2) 四日市々營住宅（代表者四日市市長）

一、事業　小住宅供給
一、組織　市營
一、沿革　大正十一年度、大正十二年度ニ於テ低利資金十二萬圓ヲ簡易生命保險積立金中ヨリ借受ケ住宅緩和ノ目的ヲ以テ第一次ニ四十戸、第二次ニ六十戸ノ小住宅ヲ建設シ一般ノ希望者ニ貸與シツヽアリ其ノ内譯左ノ如シ

戸數	一室數	一戸當疊數	一戸當月家賃	敷金	
一三戸	五	二	一六、〇〇圓	徵セス	
一一	五	二	一五、五〇	同	
一〇	五	二	一四、五〇	同	
一	六	二	一四、五〇	同	
一	六	二	一四、〇〇	同	
六	五	二	一三、五〇	同	
二	三	二	一二、〇〇	同	
五	三	二	一一、〇〇	同	
四	三	二	一〇、五〇	同	
二二	三	二	九、七〇	同	
二五	三	二	九、二〇	同	
一〇〇					

(3) 富田町營住宅（代表者富田町長）

一、事業　小住宅供給
一、組織　町營
一、沿革　大正十二年度ニ於テ低利資金參萬圓ヲ簡易生命保險積立金中ヨリ借受ケ住宅緩和ノ目的ヲ以テ住宅二十戸ヲ建設シ貸與シツヽアリ其ノ内譯左ノ如シ

戸數	一室數	一戸當疊數	一戸當月家賃	敷金
二〇戸	四	一九、五	一二、〇〇圓	三六、〇〇圓

(4) 白子町營住宅（代表者白子町長）

一、事業　小住宅供給
一、組織　町營

一、沿革　大正十二度ニ低利資金貳萬五千圓ヲ簡易生命保險積立金中ヨリ借受ケ住宅緩和ノ目的ヲ以テ住宅十八戸ヲ建設シ貸與シツヽアリ其ノ内譯左ノ如シ

戸數	一戸當室數	一戸當疊數	一ヶ月家賃	敷金
甲 三戸	六	三一、〇	一四、〇〇円	徴セス
乙 三	五	二三、〇	一〇、〇〇〇	同
丙 六	三	一五、〇	六、〇〇〇	同
丁 六	三	一三、五	五、〇〇〇	同
計 一八				

一、事業　(5)　松江村營住宅　(代表者松江村長)

一、組織　小住宅供給

村營

一、沿革　大正十三年度ニ低利資金貳萬圓ヲ簡易生命保險積立金中ヨリ借受ケ住宅緩和ノ目的ヲ以テ住宅二十二戸ヲ建設シ貸與シツヽアリ其ノ内譯左ノ如シ

戸數	一戸當室數	一戸當疊數	一ヶ月家賃	敷金
甲 四戸	四	一二、五	一〇、〇〇円	徴セス
乙 一二	四	一三、五	八、〇〇〇	同
丙 六	五	一四、五	七、〇〇〇	同
計 二二				

十一、公設市場並公設浴場

1、公設市場

歐洲戰亂以後物價昂騰シ中產階級以下ノ生活ヲ脅威スルコト甚シキニヨリ之ヲ緩和スルノ目的ヲ以テ大正十年四月四日市勞働民聲會ノ經營ニ依リ第一市場ヲ同市四ツ谷新町ニ第二市場ヲ同市北町ニ設置セリ賣店戸數ハ二十三戸ニシテ内十三戸ハ市役所ヨリ無償貸付セルモノナリ本市場ニ於テハ努メテ生活必需品ヲ市價ヨリ低廉ニ供給シ之ニ依リテ一般市價ヲ調節シ相當ノ效果ヲ擧ケツヽアリ開設ノ當時ハ其ノ成績振ハサリシカ近時市場ヲ理解シ之ヲ利用スルモノ漸次增加セリ大正十五年四月一日ヨリ市ノ經營ニ移管セリ又阿山郡城南村ニ於テハ大正十四年三月二十九日ヨリ公設市場ヲ開場シ精米機ヲ据付ケ米麥ノ精白ヲ行ヒ市價ヨリ低廉ニ販賣セル等相當ノ成績ヲ收メツヽアリ大正十五年中ノ賣上高左表ノ如シ

市場名	經營者	賣上高（大正十五年中）	一ヶ月平均開場日數	一ヶ月平均賣上高
四日市市公設市場	四日市市	自一月至六月 二九、七九六		
城南村公設市場	阿山郡城南村	自七月至十二月 三〇、八八五		
計		合計 六〇、六八一	二八	五、〇五七
		五、〇八五	三〇	一、〇九五
		三四、八八二	二九	六、一五三
		三八、九四四		
		七三、八二五		

2、公設浴場

衛生思想ノ普及發達ヲ圖ルニ適當ナル施設トシテ公設浴場ヲ設置スルモノ漸次增加セリ昭和元年十二月末ニ於ケル成績左記ノ如シ尙數人若ハ數十人ヲ以テ任意組合ヲ組織シ共同浴場ヲ設立セルモノ亦多ク其ノ數四十八ニ達シ何レモ相當ノ成績ヲ收メツヽアリ

浴場名	經營者	設置年月	延人員	均開場日數	均入浴人員	入浴料
明正湯	桑名郡深谷村下深谷部第四區	大正二年一月	三九、一五八	三〇	二七、四二九	大人二錢 小人一錢
東岸江共同浴場	飯南郡松阪町東岸江區	大正十一年九月	二九二、〇五〇	二九	二四、三七	大人二錢 小人一錢
西岸江共同浴場	同町西岸江區	大正十五年九月	二八、六七〇	二九	二、三九	大人一錢五厘 小人一錢
日野町二丁目共同浴場	同町日野町二丁目	大正十二年十月	三二四、二三八	二八	二七、〇一〇	大人二錢 小人一錢
白鳳湯	阿山郡城南村上野區	大正十五年八月	三二六、四三〇	二九	二六、三六九	大人二錢 小人一錢
愛共湯	津市愛宕町區	明治二十六年	一六六、五八〇	二九	一三、八七六	大人一錢 小人一錢

第五　兒童保護事業

一、感化教育

●(イ)三重縣立國兒學園

位置　河藝郡栗真村町屋

事業　不良少年少女感化

經營　三重縣

職員　園長佐々木毅外教諭二名、保姆二名、書記一名

沿革　明治四十一年四月法律第四十三號感化法改正ニ伴ヒ同年十月津市大字弓之町ニ設立シ翌四十二年四月現在ノ地ヲトシ新築ニ着手シ四十三年三月落成同月此處ニ移ル

現況　本院ハ感化法第五條ニ該當スルモノヲ收容感化ス（參照）

一、滿八歲以上十八歲未滿ノモノニシテ不良行爲ヲナシ又ハ不良行爲ヲナスノ虞アリ且ツ適當ニ親權ヲ行フモノナク地方長官ニ於テ入院ヲ必要ト認ムルモノ

二、滿十八歲未滿ノモノニシテ親權者又ハ後見人ヨリ入院ヲ出願シ地方長官ニ於テ其ノ必要ヲ認メタルモノ

三、裁判所ノ許可ヲ經テ懲戒場ニ入ルヘキ者

敎育方針ハ敎育勅語及戊申詔書ノ御趣旨ヲ奉體シ敎育法規ノ精神ニ基キ兒童ノ身體精神ノ健全ナル發達ヲ圖リ皇國臣民本來ノ面目ヲ發揮セシメ相互ニ自由ト眞實トノ生活ヲ尊重シ常ニ懺悔ト感謝ヨリ生スル奉公報恩ノ活動努力ヲナスヘキ日本國民ヲ養成セムコトヲ期ス

三重縣立國兒學園規則

（明治四十一年十月縣令第百一號）

第一條　三重縣立國兒學園ハ感化法第一條ニ依リ之ヲ設置ス

第二條　三縣立國兒學園ニ左ノ職員ヲ置キ知事之ヲ任免ス

園長

敎諭

保姆

書記

第三條　園長ハ知事ノ指揮監督ヲ承ケ園務ヲ處理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第四條　敎師ハ園長ノ指揮ヲ承ケ在園者ノ感化敎育ニ從事ス

第五條　書記ハ園長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第六條　保姆ハ園長ノ指揮ヲ承ケ敎諭ヲ補助シ兼ネテ在園者ノ保護ニ從事ス

第七條　本園ニ嘱託醫師ヲ置ク醫師ハ園長ノ指揮ヲ承ケ醫務ニ從事ス

第八條　園長事故アルトキハ上席敎諭其ノ事務ヲ代理ス

第九條　入園命令ハ感化法第十條ニ依リ場合ニ於テハ具申ヲ爲シタル行政廳ヲ經同法第五條第二號及第三號ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ出願人ヲ經之ヲ交付ス

第十條　園長ハ入園又ハ復園命令ノ通知ヲ受ケタルトキハ速ニ引取ノ手續ヲ了シ之ヲ本人住所地市町村長ニ通知スヘシ但シ必要ト認ムル場合ハ警察官吏ノ護送ヲ求ムルコトヲ得

第十一條　園長ハ假退園又ハ復園ヲ要スト認メタルトキハ知事ニ具申スヘシ

第十二條　假退園命令書ヲ交付セラレタルトキハ園長ハ其ノ命令書ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ感化法第五條第二號ニ依ルモノハ第一號第三號ニ依ルモノハ所轄警察署及市町村長ニ通知スヘシ

第十三條　假退園者ノ保護者ハ毎月一回以上其ノ狀況ヲ園長ニ報告スヘシ

第十四條　退園命令書ヲ交付セラレタルトキハ第十二條ノ例ニ依リ之ヲ通知スヘシ

第十五條　入園者復園者假退園者ノ引取ニ要スル費用ハ扶養義務者ノ負擔トス但シ事情已ムヲ得サルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　在園者ニハ獨立自營ニ必要ナル教育ヲ施シ實業ヲ練習セシメ女子ニハ家事裁縫ヲ修習セシム

第十七條　在園者ニシテ作業ニ就ク者ニハ勤勞金ヲ給與スルコトヲ得

第十八條　在營者ノ衣食療養其ノ他必要ナル費用ハ扶養義務者ノ負擔トス但シ其ノ全部又ハ一部ヲ免除スヘキ事由アリト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　囑託醫ハ毎月一回以上在園者ノ健康診斷ヲ行フヘシ

第二十條　園長ニ於テ必要ト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一、一日三時間以上睡眠ヲ爲サシメ若ハ特別ノ勞務ニ服セシムルコト

二、五日以內晝夜一室ニ獨愼セシムルコト

第二十一條　園長ハ帳簿ヲ備ヘ檢束及懲戒ヲ加ヘタル事由其ノ程度並處分後ニ於ケル行狀其ノ他必要ナル事項ヲ登記スヘシ

第二十二條　在園者ノ費用徵收ノ方法並會計ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條　處務細則其ノ他園內ノ規定ハ知事ノ認可ヲ經テ園長之ヲ定ム

附　則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

國兒學園昭和二年度歲出豫算

歲出

園長年俸	一	一、四〇〇円〇〇〇
教諭月給	一	一、三二〇、〇〇〇
書記月給	一	六〇〇、〇〇〇
保姆月給	一	九六〇、〇〇〇
農夫兼炊事人月給	一	三六〇、〇〇〇
醫師手當		六〇、〇〇〇
旅費		五二〇、〇〇〇
勉勵賞與費		一一七、五〇〇
取引費		二〇、〇〇〇
備品費		二九七、〇〇〇
消耗品費		九四一、三八〇
被服費		三五〇、〇〇〇
食費		三、〇〇二、一二〇
通信費		二六七、〇〇〇
印刷費		三〇、〇〇〇
肥料費		三〇、〇〇〇
種子費		一八〇、〇〇〇

維持費		一八一、〇〇〇
營繕費		四一四、〇〇〇
合計		一、八八〇、〇〇〇
創立以來入園生		一三六名
同 退園生		九三名
現在籍生	在園生	二八名
	委託生	一一名
	假退園生	四名
	計	四三名

●(口)財團法人三重感化院

位置　四日市々濱田八百六十八番地

事業　不良少年少女感化

經營　財團法人

職員　院長山岡作藏外保姆一名、事務員一名

沿革　明治三十年九月創立シ爾來刻苦經營四十三年現地ニ院舍ヲ新築シ事業ノ進行ト共ニ收容兒童ノ將來ヲ慮リ年長兒童ニ活版業ヲ授ケ逐年良好ノ成績ヲ收メ

現況　大正六年五月其ノ組織ヲ財團法人ニ改メタリ
大正十五年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金五百圓ヲ補助セリ而シテ收容兒童ノ教育ハ院內ニ於テ授クルモノト市內ノ小學校ニ通學セシムルモノトアリ收容兒童ハ現在十五名ニシテ前記活版業ノ外薪ノ販賣及農業ヲ授ク
昭和二年度ノ收支豫算竝創立以來ノ成績左ノ如シ
財團法人三重感化院昭和二年度歲入歲出豫算

歲入		
第一款	補助費	八五〇円
第二款	寄附金	三、三三二
第三款	財產收入	四〇
第四款	雜收入	一〇
第五款	工場收益	三、五〇〇
第六款	前年度繰越	五
第七款	義債	一、〇〇〇
合計		八、七三七

歲出	
第一款	在院人費 二、四三七円

第二款　院費
第三款　負債償却
第四款　基本財産造成費
第五款　敷地購入費
第六款　豫備費
第七款　義債償還
合計

四、〇五〇
六〇〇
一〇〇
一、一五〇
五〇
三五〇
八、七三七

創立以來ノ成績表

種別	改悛者	放院者	逃亡者	死亡者	計
男	七四人	三人	二四人	一一人	一一二人
女	一四	一	四	一	二〇
計	八八	四	二八	二	一三二

二、保育及育兒

位置　津市相生町
事業　幼兒保育

(イ)　津市保育園

經營　津市
職員　園長大島三郎外保姆三名、囑託一名
沿革　大正十三年四月津市ノ設立ニ係リ三歳以上學齢未滿ノ幼兒ヲ收容シ該兒童ヲ通シテ生活改善、社會改良ヲナスヲ目的トシ現在ノ地ニ園舍ヲ新築ス
現況　現在男五十二名女四十一名計九十三名ヲ收容シ簡易ナル遊戲、唱歌、手工等ヲ授ケ午前八時ヨリ日沒迄保育シ優良ナル成績ヲ示シツヽアリ
尚附帶事業トシテ園內ニ「トラホーム」治療所ヲ設ケ一般附近住民ノ診療ニ應シ尚母姉會、活動寫眞會、音樂會等ヲ開キ趣味ノ向上ト家庭ノ聯絡ヲ圖リ尚兒童ノ間食費ヲ節シ兒童貯金ヲ奬勵シ本年四月以降既ニ總額四百圓ニ達セリ
昭和二年度支出豫算並創立以來ノ收容者左ノ如シ

歳出

一	職員給料	一、二六〇円
二	旅費	二〇
三	小使給	三〇〇
四	傭人料	二〇
五	賞與	一七四

六 備品費	一九〇
七 消耗品費	二二七
八 電燈費	三〇
九 恩物及間食費	二〇〇
十 通信運搬費	五
十一 雜費	七五
十二 修繕費	三〇〇
合計	二、八〇一

(財團法人)●ロ 三重保育院

位置	津市津興字米ノ内二、一二一番地
事業	幼兒保育
經營	財團法人
職員	院長玉置諦聽外主事一名、保姆四名
沿革	大正三年九月玉置諦聽、小林源六外數名ノ有志ニ依リテ現在ノ地ニ設立セラレタルモノニシテ幼兒ニ拘束セラレテ勞働ニ從事スルコト能ハサル人ノ爲晝間幼兒ノ保育ヲナシ安シテ生業ニ就カシム、大正七年三月其ノ組織ヲ改メテ財團法人トナス

現況

大正十五年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金參百圓ヲ補助セリ而シテ現在男三十七人、女三十八人計七十五人ヲ收容シ生後百日以上滿六歳迄ノ兒童ヲ午前六時ヨリ日沒迄保育ス、保育料一日金五錢ヲ徵シ晝食ヲ與ヘ乳兒ニハ牛乳ヲ與フ、今回御成婚記念トシテ院舍ノ擴張ヲ行ヒ事業ノ發展ヲ期シツヽアリ

昭和二年度收支豫算並創立以來ノ收容者左ノ如シ

財團法人三重保育院昭和二年度歳入歳出豫算

歳入

第一款 補助金	九〇〇円
御二款 財產收入	一、二五〇
第三款 寄附金	一、〇〇〇
第四款 保育料	五二五
第五款 會員出資金	五一六
第六款 雜收入	一五
第七款 繰越金	四〇〇
合計	四、六〇六

歳出

第一款　事務所費　二、五五四円
第二款　給養費　一、一〇二
第三款　臨時費　九五〇
合計　四、六〇六

創立以來ノ收容者　男　四一八名　女　三七二名　計　八五三名

●(八)津市愛兒園

位置　津市中新町二千二十六番地
事業　幼兒保育
經營　有志會員
職員　總理多羅尾光照外保姆三名、助手一名、園醫囑託一名
沿革　總理多羅尾光照ハ幼兒保育事業ノ最モ緊要ナルヲ痛感シ之レガ施設資金トシテ多年私財ヲ蓄積シ之レニ有志ノ寄附金ヲ合シテ中新町ニ園舍ヲ建築シ大正十五年八月三十日縣ノ認可ヲ經テ事業ヲ開始セリ
現況　設立後日尙淺キモ現ニ男二三人　女二〇人　計四三人ヲ收容ス
昭和二年度出歲入歲出豫算左ノ如シ
津市愛兒園昭和二年度歲入歲出豫算

歲入

第一款	會員醵出金	一、六三八円
第二款	保育料	五四五
第三款	補助金	四〇〇
第四款	寄附金	一〇五
合計		二、六八八

歲出

第一款	保姆給料	一、二六〇円
第二款	旅費	二〇
第三款	小使給料	三〇〇
第四款	傭人料	一〇
第五款	賞與	一五六
第六款	備品費	二五
第七款	消耗品費	二三三
第八款	電燈費	五八
第九款	慰物費	六〇
第十款	食費及間食費	四二八

第十一款　通信運搬費	一〇
第十二款　雜費	九八
第十三款　修繕費	三〇
合計	二、六八八

●(ニ)　四日市佛教保育院

位置　四日市市南町二、七〇一番地

事業　幼兒保育

經營　有志會員

職員　院長後藤亮穩外主事一名、書記二名、保姆三名、助手二名

沿革　大正五年十月乳兒及幼兒ヲ預リ晝間保育ヲ爲ス目的ヲ以テ四日市々各宗有志僧侶相謀リテ創立シ爾後現院長後藤亮穩之ヲ引繼經營シ大正十年五月同市濱町ニ分院ヲ設置ス

現況　大正十五年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金六百圓ヲ補助セリ而シテ現ニ男三十五人女三十一人計六十六人ヲ收容ス

昭和二年度歲入歲出豫算並創立以來ノ收容者左ノ如シ

四日市佛教保育院昭和二年度歲入歲出豫算

歲入	
第一款　會員醵出金	三〇〇円
第二款　托鉢收入	二〇〇
第三款　寄附金	二、七〇〇
第四款　事業收入	五五〇
第五款　助成金	一、三八〇
第六款　基金收入	二〇〇
第七款　雜收入	一七〇
第八款　繰越金	—
合計	五、五〇〇

歲出	
第一款　事務所費	二、九一三円
第二款　給養費	一、七五三
第三款　院舍費	四三四
第四款　基金積立金	三〇〇
第五款　豫備費	一〇〇
合計	五、五〇〇

創立以來ノ收容者　男三四六名　女三三二名　計六七八名

●(ホ)　白鳳愛兒園

位置　阿山郡上野町九之内二十三番地

事業　幼兒保育

經營　有志會員

職員　理事渡邊博道、雜賀事秀、靜永瑞貞外幹事一名、保姆三名

沿革　大正七年八月乳兒及幼兒ヲ預リ晝間保育ノ目的ヲ以テ上野町各宗僧侶並有志相謀リテ同町惠美須町一、五九一番地ニ創立シ上野保育院ト稱シタルモ最近ニ至リ名稱ヲ前記ノ通リ改稱セリ、然ルニ位置一隅ニ偏シ設備完全ナラサルヲ以テ御成婚記念トシテ現在ノ地ニ園舍ヲ新築シ大正十三年三月移轉ヲ了シ優良ナル成績ヲ擧ケツヽアリ

現況　大正十五年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金四百圓ヲ補助セリ現在第一部ハ男七名女三名計十名、第二部ハ男六十七名女七十名計百三十七名ヲ收容ス昭和二年度豫算並創立以來收容者左ノ如シ

白鳳愛兒園昭和二年度歲入歲出豫算

歲入

第一款　釀出金	二、〇五〇円
第二款　雜收入	二三五
第三款　助成金	一、〇〇〇
計	三、二八五

歲出

第一款　雜給	一、五八二円
第二款　保護費	五三三
第三款　需要費	五五〇
第四款　納付金	四〇
第五款　積立金	三一〇
第六款　臨時費	二七〇
合計	三、二八五

創立以來ノ收容者　男二六三名　女二一五名　計三七八名

●(ヘ)　宇治山田市佛敎團保育園

位置　宇治山田市宮後町字越坂養草寺境內

事業　幼兒保育

經營　宇治山田市佛教團

職員　園長鬼頭誠音外書記一名、保姆二名、助手一名

沿革　大正十一年十一月一日晝間幼兒保育ノ目的ヲ以テ宇治山田市佛教團員相謀リテ創立シ主トシテ托鉢收入ニ依リテ經營ス院舍ハ現ニ養草寺ノ藥師堂ヲ使用セルカ將來適當ナル土地ヲ選定シ新築ノ計畫ヲ有ス

現況　大正十五年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金參百圓ヲ補助セリ、現在男八人女十七人計二十五人ヲ收容シ午前六時ヨリ日沒迄保育ヲナス

昭和二年度豫算並創立以來ノ收容數左ノ如シ

宇治山田市佛教團保育園昭和二年度歳入歳出豫算

歳入

第一款	醵出金	二八八円
第二款	補助金	六一五
第三款	喜捨金	三三〇
第四款	寄附金	三、三四四
第五款	雜收入	一六五
第六款	繰越金	一五〇
合計		四、八九二

歳出

第一款	事務所費	六五円
第二款	事業費	一、二八〇
第三款	手當	八五
第四款	負擔金	一二
第五款	積立金	六〇
第六款	園舍建築費本年度支出	三、三三四
第七款	豫備費	五六
合計		四、八九二

創立以來ノ收容者　男一二九名　女一三六名　計二六五名

●（ト）松阪愛護園

位置　飯南郡松阪町大字松阪本町二、〇五八番地

事業　幼兒保育

經營　飯南郡佛教團松阪支部

職員　理事長高志一成外保姆二名

沿革　勞働者ノ生業能率ヲ助長シ心身ノ發達ト純良ナル風習ヲ馴致スルヲ目的トシ

ヲ松阪支部員協議ノ上大正十三年四月認可ヲ得テ同町西町五丁目淨邦庵内ニ設置シ同年七月現在ノ地ニ移轉セリ然レトモ其ノ設備不完全ニシテ其ノ目的ヲ達成スルコト能ハサルヲ以テ新築ノ必要ヲ認メ舊家畜市場跡ヲ買收シ本年度金六千五百圓ヲ投シテ園舍ヲ新築セリ

現況　大正十五年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲メ金貳百圓ヲ補助セリ、現ニ男三十二名女二十七名計五十九名ヲ收容ス

昭和二年度歲入歲出豫算左ノ如シ

松阪愛護園昭和二年度歲入歲出豫算

歲入

第一款	醵出金	一、〇七二圓一六〇
第二款	事業收入	五〇二、〇〇〇
第三款	篤志寄附金	二〇〇、〇〇〇
第四款	助成金	三〇〇、〇〇〇
第五款	雜收入	二三八、六〇〇
第六款	積立金	四〇、〇〇〇
第七款	繰越金	一五〇、〇〇〇
合計		二、五〇二、七六〇

歲出

第一款 事務所費	九九八、〇〇〇
第二款 給養費	六八二、六〇〇
第三款 園舍費	七〇、〇〇〇
第四款 積立金	三〇、〇〇〇
第五款 償還金	六七二、一六〇
第六款 豫備費	五〇、〇〇〇
合計	二、五〇二、七六〇

●（チ）桑名愛兒園

位置　桑名郡桑名町大字新町九華育兒院内

事業　幼兒保育

經營　桑名方面委員

職員　園長小河内彌兵衛外理事一二名、保姆二名

沿革　桑名町ノ發展ニ伴ヒ日傭勞働者次第ニ增加シタルヲ以テ其ノ子女ヲ預リ晝間保育ヲ爲シ以テ其ノ生業能率ヲ增進セシムル目的ノ下ニ同町方面委員相謀リ大正十三年十一月五日認可ヲ受ケ九華育兒院内ニ設立シ主トシテ寄附金ニ依リ經營シツヽアルモ近ク資金ト適當ナル土地トヲ得テ新築スルノ計畫ヲ有ス

現況　大正十五年度ニ於縣ハ事業助成ノ爲金貳百圓ヲ補助セリ、現ニ男十四名女十六名計三十名ヲ收容シ午前六時ヨリ日沒迄保育ス

昭和二年度歲入歲出豫算左ノ如シ

桑名愛兒園昭和二年度歲入歲出豫算

歲入

第一欵	事業收入	三〇〇円
第二欵	財產ヨリ生スル收入	二七
第三欵	雜收入	八
第四欵	寄附金	一七〇
第五欵	助成金	一、六五〇
第六欵	繰越金	二〇
合計		二、一七五

歲出

第一欵	事務費	一、一七四円
第二欵	給養費	八三五
第三欵	園舍費	三六
第四欵	積立金	一〇〇
第五欵	豫備費	三〇
合計		二、一七五

●（リ）財團法人三重濟美學院

位置　津市丸之內殿町二、〇八七番地

事業　孤貧兒救濟、幼兒保育

經營　財團法人

職員　理事長能眞海外主事一名、事務員二名、保姆二名

沿革　明治三十四年能敎海三重育兒院ヲ寺町ニ創立シ同年奧野定之助津養育院ヲ伊豫町ニ創立シ爾來併立シ來リタルヲ大正三年四月兩院主宰者ノ諒解ノ下ニ合併統一シ名ヲ三重濟美學院ト改稱シ大正六年二月組織ヲ財團法人ニ改ム然レトモ時代ノ趨勢ハ育兒ノミヲ以テ滿足スル能ハサルノ時恰モ東宮殿下御成婚ニ際セルヲ以テ記念トシテ幼兒保育ヲ計畫シ園舍ヲ新築シテ精華園ト命名シ保育ヲ爲ス

現況　大正十五年度ニ於テ縣ハ事業助成ノ爲金五百圓ヲ補助セリ、現在男十二名女八名計二十名ヲ收容シ學齡兒童ハ市內小學校ニ通學セシム

昭和二年度豫算並創立以來ノ成績左ノ如シ

財團法人三重濟美學院昭和二年度歳入歳出豫算

歳入

第一款	財産收入	九三七円
第二款	雜收入	四二〇
第三款	繰越金	七〇〇
第四款	助成金	一、二〇〇
第五款	會員醵金	一、四〇〇
第六款	臨時寄附	五〇〇
合計		五、一五七

歳出

第一款	事務費	一、三〇五円
第二款	教養費	二、一九四
第三款	修繕費	三〇〇
第四款	敷地費	五〇
第五款	精華園費	五〇〇
第六款	積立金	五〇〇
第七款	豫備費	三〇八

合計

創立以來ノ成績

收容人員	孤兒	男	三三人	女 二二人
	貧兒		七一	三七
	棄兒		六	一〇八
	計		一一〇	五五人
退院者	獨立		二	四 一〇
	緣族引取		五二	六三 一七三
	篤志者引取		二八	一 二
	死亡者		一四	二八 八〇
	計		九六	一七 四五
				一二 二六
				五七 一五三

位置　桑名郡桑名町字新町二、四四七番地

事業　孤貧兒救濟

經營　財團法人（財團法人）九華育兒院

職員　院長矢田俊正外理事二名、主事一名、保姆一名

沿革　明治三十四年五月、矢田俊正、鳥飼演廣、塚本左次郎之ヲ創立シ爾來大日本佛教慈善財團及九華慈善會ノ後援ニ依リ事業ヲ繼續シ大正元年八月組織ヲ財團法人ニ改ムル然ルニ院舍漸ク腐朽シ設備亦不完全ナルヲ以テ東宮殿下御成婚記念トシテ現在ノ土地並講堂ヲ買收シ之ニ修繕ヲ加ヘ新ニ院舍ヲ建築シ大正十四年六月竣工セリ

現況　大正十五年度ニ於テ縣ノ事業助成ノ爲金參百圓ヲ補助セリ、現在男十六名女六名計二十二名ヲ收容シ學齡兒童ハ小學校ニ通學セシム

昭和二年度豫算並創立以來ノ成績次ノ如シ

財團法人九華育兒院昭和二年度歲入歲出豫算

歲入

第一款	財産收入	五六、九円七一〇
第二款	繰越金	二〇〇、〇〇〇
第三款	雜收入	三八一、五〇〇
第四款	恩賜金	三〇〇、〇〇〇
第五款	助成金	七〇〇、〇〇〇
第六款	九華慈善會交付金	七一〇、〇〇〇
第七款	寄附金	九九〇、七九〇
合計		三、八五二、〇〇〇

歲出

第一款	事務費	一、三三〇、〇〇〇円
第二款	給養費	二、一七二、〇〇〇
第三款	修繕費	二〇、〇〇〇
第四款	積立金	三〇〇、〇〇〇
第五款	豫備費	三〇、〇〇〇
合計		三、八五二、〇〇〇

創立以來ノ成績

收容人員

	男	女	計
貧兒	四〇人	一五人	五五人
孤兒	二	五	七
遺兒	一三	一	一四
計	五五	二十	七六

退院者	獨立	三	一	三	一
	緣族引取	三三	一三	四六	一
	篤志者引取	一	一	一	七
	死亡者	六	一四	五六	
	計	四二			

●(ル)波切村立保育場

位置　志摩郡波切尋常高等小學校内

事業　幼兒保育並就學督勵

經營　波切村

職員　村長、校長監督ノ下ニ訓導三名、保姆三名

沿革　從來當地方ハ農繁期及漁獲時期ハ子守ノ爲就學兒童ヲ休學セシムル風習アルヲ以テ之ヲ向上セシメ且幼兒ノ健全ナル發育ニ資セムガ爲御大典記念トシテ大正五年五月設立セリ

現況　本院ハ前記目的以外ニ勞働者福祉ノ增進ヲ兼ネ幼兒保育ニ努ムル故ニ日曜祭日等ハ小學校ニ準スルコト勿論ニシテ學齡兒童ハ其ノ家庭ノ幼兒ヲ携ヘテ登校シ授業時間中之ヲ保姆ニ托シ退校ノ砌之ヲ受取リ歸宅ス保育料ハ一人一ケ月

貳拾錢ヲ徵收ス而シテ現ニ男十二名女十七名計二十九名ヲ保育シツヽアリ大正十五年度豫算ハ四三〇圓ニシテ昨年度小學校改築ト共ニ本場モ現在ノ二倍ニ擴張シ其ノ内容ヲ充實セリ

●(ヲ)東洋紡績株式會社富田工場託兒所

位置　三重郡富洲原町大字松原五百三十七番地ノ一男工宿泊所昌平寮

事業　幼兒保育

經營　東洋紡績株式會社

職員　所長土屋喜太郎、事務員一名、保姆一名

沿革　富田工場從業員ノ幼兒及乳兒ヲ晝間保育シ其ノ家庭ノ生活ノ安定ト幸福ノ增進トヲ計リ併テ兒童ノ心身ヲ健全ナラシメ善良ノ習慣ヲ得シムル目的ヲ以テ大正十四年七月一日男工宿泊所昌平寮内ニ於テ事業ヲ開始セリ

現況　昭和二年度ノ豫算ハ一千九百圓ニシテ現在幼兒男十八名女二十二名乳兒男十名女七名計五十七名ヲ保育シツヽアリ

三、農繁託兒

農繁託兒所ハ主トシテ農村ニ於ケル勞働者ノ兒童保護並經濟的保護ノ爲メニ設置スルモノニシテ農村ニ於テ最モ適切ナル社會事業ナリ即チ田植期、養蠶期、秋收期等ニ於テ幼兒ガ

足手纏トナリ勞働スルコト能ハザル母姉頗ル多キハ農村ノ現狀ニシテ此等母姉ヲシテ安シテ家業ニ從事セシムルト共ニ一面兒童ヲ細心ナル注意ノ下ニ保育シテ心身ノ發達ヲ圖ル而シテ之レガ經營ハ主トシテ敎養アル寺院ノ住職夫妻並篤志者ノ妻女擔任シ會場ハ修養ノ道場タル寺院ヲ之ニ當テ經費ハ地主其ノ他篤志家ノ寄附金町村費補助等ナリ縣ハ大正十五年度ヨリ補助金ヲヲ交付シテ之カ設置ヲ督勵セシニ阿山郡、安濃郡、一志郡、飯南郡等ニ於テ別表ノ如ク設置ヲナシ何レモ成績良好ニシテ如上ノ目的ヲ達成シ尙町村民ノ宗敎心ヲ高ムルト共ニ小作爭議ヲ緩和スルニ幾分效果アルモノヽ如シ

一、夏期（冬作物收穫 並田植期）ノ一

大正十五年

施設場所	託兒所名	開設期間	經營者名
阿山郡西柘植村大字柏野 轉輪寺	柏野農繁託兒所	自六月一日 至六月二十日	玉置俊透
同 御代 專念寺	御代農繁託兒所	自六月一日 至六月二十日	吉永眞瑞
安濃郡櫛形村大字分部 法光寺	法光寺農繁託兒所	自七月二十日 至七月二十九日	宇田川敎順
一志郡小野江村大字小野江 唯稱寺	得生山農繁託兒所	自六月二十六日 至七月四日	長澤信定

夏期ノ二

託兒所名	開設日數	託兒數	同上延日數	同一日平均數	經費
柏野農繁託兒所	二〇日	二四人	四〇六日	二〇人	二二、四〇円
御代同	二〇	二二	四一〇	二〇	二二、二〇
法光寺同	一〇	五	四五	五	三、〇〇
得生山同	九	四二	三二六	三六	六五、〇〇
計		九三		八一	一一二、六〇

二、秋期ノ一

大正十五年

施設場所	託兒所名	開設期間	經營者名
阿山郡西柘植村大字柏野 轉輪寺	柏野農繁託兒所	自十一月一日 至同三十日	玉置俊透
同 大字御代 專念寺	御代同	同	吉永眞瑞
同 大字楯岡 淨林寺	楯岡同	自十月廿六日 至十一月十二日	服部隆法
同 山田村 地藏寺	地藏寺同	自十一月一日 至同三十日	嶽盛戒隨

一志郡小野江村大字小野江唯稱寺飯南郡松阪町大字東岸江公會堂	得生山同救魂會同	自十一月六日 自十一月廿五日 至十二月六日 至十二月廿日	長澤信定 大川友次郎		

秋期ノ二

託兒所名	開設日數	託兒數	同上延日數	同一日平均數	經費
柏野農繁託兒所	三〇日	二二人	六〇〇日	二〇人	二七、五〇円
御代同	三〇	三四	七五四	二五	二七、〇〇〇
楯岡同	一八	二四	三一〇	一七	一二、〇五五
地藏寺同	二九	二三	四三五	一五	二四、〇〇〇
得生山同	二〇	五二	九五四	四八	六五、〇〇〇
救魂會同	四五	五〇	一、八〇〇	四〇	一一六、〇〇〇
計		二〇五		一六五	二七一、五五

四、妊産婦保護

●(イ) 宇治山田市妊産婦保護

位置　宇治山田市大字一志久保町百九十四番地寺田產院內

事業　妊產婦保護

經營　宇治山田市

職員　院長寺田縫之助外助產婦十五名

宇治山田市住民ニシテ生活困難ナル爲助產婦ヲ雇入ルヽコト能ハサル者ヲ保護スル目的ヲ以テ大正十一年四月宇治山田市ハ妊產婦保護所ヲ設置シ同事務全部ヲ寺田醫師ニ囑託スルヤ氏ハ鋭意該事業ニ力ヲ致シ

大正十一年中	百十七名
大正十二年中	八十四名
大正十三年中	七十三名
大正十四年中	六十三名
大正十五年中	四十四名

合計三百八十一名ノ妊產婦保護ヲ爲シ良好ナル効果ヲ擧ケツヽアルノミナラス市ノ同經費中ヘ毎年金貳百圓宛ヲ寄附シ患者ニ對シテハ懇切丁寧ニ取扱ヒ市民ノ信用ヲ博セリ

昭和二年度歲出豫算左ノ如シ

七六〇円〇〇〇

(ロ) 越賀村産婦保養所

位置　志摩郡越賀村中央

事業　産婦保護

經營　越賀村

設置年月日　大正十二年三月三十一日

沿革　從來本村ハ東西二ケ所ニ頗ル粗糙ナル保養所アリテ土地ノ習慣ニヨリ産婦ハ貧富ノ別ナク産後四十日乃至六十日間此處ニ休養スルヲ例トス然ルニ近時該建物腐朽セルヲ以テ之カ改築ノ議起リ村會ノ議決ヲ經テ工費金壹千九拾四圓拾錢ヲ投シ二ケ所ヲ合併シテ中央部ニ建築セリ

設備　建坪十五坪瓦葺木造平家ニシテ六疊二室、三疊一室ヲ備ヘ「コンクリート」ノ土間ニ炊事室ヲ附設シ電燈ノ設備ヲナシ普通住宅ト異ルコトナシ

實況　産婦ニハ母或ハ姉妹等付添ヒテ炊事ヲ爲シ休養期間中ハ全ク繁雜ナル境遇ヲ脫シテ靜養スルコトヲ得使用上ニ付テハ何等ノ拘束或ハ規定等ナシ之ニ要セシ經費並産婦數左ノ如シ

大正十二年度	入所産婦數	經費
	二二人	四〇円

同　十三年度　二七

同　十四年度　五〇

同　十五年度　四九

漁村ニ於ケル本施設ハ母体ノ健康乳兒ノ發育上最モ緊要ナリトス尙本村ニハ村營産婆アリテ本保養所ノ施設ト相俟テ妊産婦及乳兒ノ保健上著シキ効果ヲ擧ケツヽアリ

(ハ) 村營産婆

妊産婦ノ健康ヲ保持シ乳兒ノ發育ヲ良好ナラシムル爲一志郡豊田村ニ於テハ大正十一年度ニ村營産婆ヲ設置シ爾來産前産後數回其ノ居宅ヲ訪問シ雜産婦ノ心得及手當等ヲ敎フ産婆料金ハ縣稅戶數割平均額以上ヲ負擔スルモノハ一回ニ付金四圓其ノ以下ノモノハ金貳圓ヲ徵收シ消毒藥、消耗品等ハ村費ヲ以テ支給セリ而シテ産婆給料ハ取扱數一回ニ付金四圓ト定ム昭和二年度支出豫算百六十五圓ニシテ毎年三十人內外ノ産兒ヲ取扱ヒツヽアリ

多氣郡荻原村ニ於テハ土地僻陬ニシテ産婆ノ定住スル者ナキヲ以テ村費ヲ以テ別ニ年手當二百十六圓ヲ支給シ以テ永住策ヲ講シツヽアリ

其ノ他左記町村ニ於テハ村內居住ノ産婆ヲ囑託シ妊産婦ノ保護ニ當ラシメ産婆料金ハ郡産婆組合ノ定ムル所ニ依リ産婦一人ニ付金五圓ヲ徵收シ而シテ産婆給料ハ本年度左記ノ豫算ヲ計上セリ

左記

答志村	二七六圓	甲賀村 四〇圓
菅島村	一八〇圓	畔名村 一二〇圓
長岡村	七二圓	片田村 二〇圓
國府村	二圓	御座村 一八〇圓
志島村	一七〇圓	赤羽村 二四〇圓
名田村	八四圓	二郷村 一三〇圓
越賀村	三〇圓	須賀利村 一八〇圓
桃取村	二四〇圓	桂城村 六〇圓
坂手村	二四〇圓	三野瀬村 一九二圓
安乘村	一八〇圓	錦村 一二〇圓

五、幼兒保護

(イ) 津市兒童遊園

位置	津市榮町四天王寺境内	約七〇〇坪	一日兒童平均約一二〇人
	津市任豫町阿彌陀寺境内	約三四〇坪	一日兒童平均約一〇〇
	津市觀音境内	同一五〇坪	同 二五〇

經營　津市

沿革　都市兒童ヲシテ安全ナル地帶ニ於テ自由ニ遊戲セシメ以テ心身ヲ健全ナラシメムガ爲前記ノ三箇所ニ兒童遊園ヲ設置シ「スベリ臺」「ブランコ」金棒等ヲ設備セリ而シテ四天王寺ハ大正十一年四月其ノ他ハ大正十三年三月完成セリ開始以來多數ノ兒童之ヲ利用シ嬉々トシテ終日運動ニ餘念ナシ

現況　大正十四年度豫算左ノ如シ

一、兒童遊園地費　三〇〇圓

津市兒童遊園昭和二年度歲出豫算

一、

六、病兒及虛弱兒保護

(イ)

開設場所　宇治山田市乳兒健康相談所

事業　乳兒ノ健康保護ヲ圖ル爲臨時健康相談所ヲ設置シ醫療ヲ加フルノ必要アルモ保護者ニシテ貧困ノ爲其ノ資力ナキモノニ對シテハ市費ヲ以テ救療ス

經營　宇治山田市　浦田町　岩淵町　一志久保町　八日市場町　大世古町